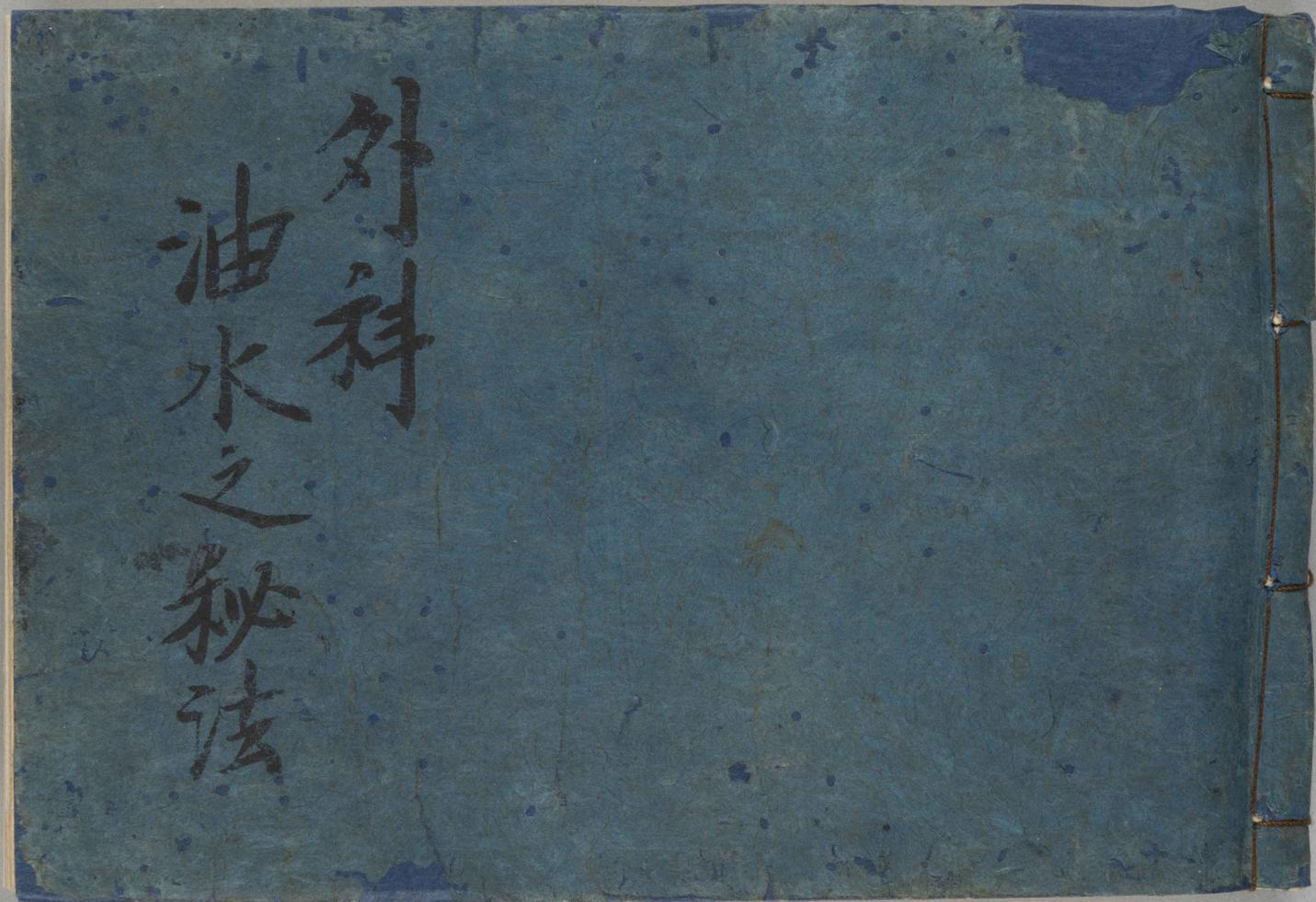


阿蘭陀紅毛外科油水之秘法
寬文十年寫





外科
油水之秘法





阿膠陀紅毛外科油水之事

第一

油配劑之夏

第二

油取樣并能之夏

第三

水取樣并能之夏

第四

酒造樣之夏

第一油配劑之夏

熱生ノ物散

冷

一ツ、リヨロサアト 白イケノ花油

一ツ、リヨソニアトロン 水茄、實油

一ツ、リヨヒヨウラ 駒川草八十油

一ツ、リヨカモメイリケ 野薊ノ花油

右四油調合メ温ノ塗付テ其上ニテベシ
イフント云膏月、呆付テ木綿一、テ巻ヘシ

寒、生物温散



^熱一ツ、リヨロウリニヨ、タフノ實油
^熱一ツ、リヨカリヨウフレト、ア子油
^熱一ツ、リヨアイシ、大茴香油
^熱一ツ、リヨシンクテイマ、女房花油
 右五油温塗付テ其上、メリロウト付テ
 木綿ニテ可卷

温氣腫痛ニハ

^熱一ツ、リヨイヘリユン、土用草花
^熱一ツ、リヨカモメイリ、野菊花
^熱一ツ、リヨヘイタラ
^熱一ツ、リヨミニヨウカス
 右四油調合メ温メ塗付テ其上、バネシ
 イコロシヨシラ付テ木綿ニテ卷ヘシ
 竹節ヲ延ハ
^熱一ツ、リヨホス、乳油

麻仁油

一ツ、リヨアノイシ、大茴香油
 一ツ、リヨカリヨウフイ、ア子油
 一ツ、リヨアチテイ子
 一ツ、リヨカモメイリ、野菊花油
 右調合メ温塗付テ上、ロシヨシメリロウ
 トテヘンシイフン付テ良
 赤身ニ痛有ラズルニハ

温燥

^冷一ツ、リヨロウニイニヨ、タフノ實油
^冷一ツ、リヨミニヨウカス
^冷一ツ、リヨサンホウシ、庭花ノ油
^冷一ツ、リヨロサアト、白イケノ花

右調合メ温メ塗付テ其上、テヘンシイフ

付テ木綿ニテ卷ヘシ
 一ツ、リヨテシシテイナ、秋脂ノ油



松脂油
琥珀油
燒酒

右三色温テ塗付ヘシ名譽良

腰冷筋結

蹄菊^菊花油

一ツ、リヨカモメイリ
一ア、ヒユテホルトカニ

一ツ、リヨテレメンテイナ 松脂油

一ツ、リヨカリヨウフシイ 丁子油

一ツ、リヨスクシイ子 琥珀油

右調合メ温テ塗付ヘシ名譽良

手足筋結不成合期

一ツ、リヨウレシテイナ

一ツ、リヨウフシイ

一ツ、カモメイリ

右三味温テ塗付テ良

肉厚取筋結

一ツ、リヨカリヨフシイ 一兩

一ツ、リヨア、ルト 土油 一兩

一ツ、リヨカモメイリ 四兩

一ツ、リヨテレメンテイナ 四兩

一ツ、リヨホス 一兩

右調合メ温テ塗付テ其上ラシヨコシヨシ
付テ良筋氣中風此劑好名譽良

切疵肉上

一ツ、リヨルメテロウレシ 一兩
一ツ、リヨイヘリコン 土用草花油

右調合メ塗付肉上右疵ハ不付

足冷クリミ痛



シヨリヨウカス
シヨリヨテ
石調合メ塗付テ好

身内イワツクニテモテハホミクハ

一ヨリヨウウリイニヨ
一ヨリヨホロンヘイ
タフソ實油
鋁ノ油

右調合メ塗付シハ満合也又高クエ
タリ白シハヒキツナルナリ

石淋

一ヨリヨスクシイ子
コルク

一ヨリヨエ子ヘシ
ソナレ松ノ實ノ油

一ヨリヨクニイシ
天茴香

一花水

右各等份合テ日ニ二度用

ケニヒキ腫痛ニハ

一ヨリヨカモメリ
野菊花油

一ヨリヨア子イナ
イノント草

一ヨリヨスクシイ子
琥珀

一ヨリヨテレメンテイナ
秋脂ノ油

右、咳、合温テ塗付テ良

第二油取様并能之良

一ヨリヨウウサ
冷生ハ重イケノ花ノ油

南蛮イケノ花是ヲ摘メ度ヲ考リホ
トカルノ油浸シテ射シテ風ニカ

一シテ水ニ黒尻ニ乾カセ
テシハリ取ナリ能ク第一熱



痛止批痛ヲ止小瘡ヲ愈方
其ノ痛止冷テ食物ヲモタ
ル粒ガ湯ニテ用良手足ハタル
塗付シハ虫死

一ツリヨカモメイリ 熱生野菊ノ花油
摘テ生ヲ去アラキ酒ニ十日浸シ其
後ホルトカルノ油ヲ入煎シ酒ノ氣除メ
ル也 一ニテコシ使何ノ花ニモ花ニ
油ニ付宛花一倍油ハ入ル物ニ能ハ第一冷
タル粒ヲ温筋ヲ延クキ瘡ヲ治温腫ヲ
散シ吞テ小使ヲ通大使ケツシタル下

一ツリヨアルテイマ 温性小蓼ノ花ノ油
取様ハ花ヲ摘ホルトカルノ油ニ浸シ十日
程置テ布ニテシホリ使ナリ能ハ第一
冷ノ粒ヲ温メ筋氣脚心ノ良

一ツリヨハリシ 熱性白草ノ油

取様ハ花ヲ摘テホルトカルノ油ニ浸シ百日
程モツケハ如朱其味布ニテシメテ
取ナリ能ハ第一疵ノ良燒所ニ良
腰痛ニ好シ耳痛ニ好シ温テ耳ノ中ニ滴
入ヘシホ身ノ腹中痛ニ好酒ニ用筋
ヲモ延ル腫ヲモヘテス

一ツリヨヒヨウラス 寒性駒引草
花 ナリ 取様口ウサ同前ニ能ハ第一
熱ニシ物ヲサシメ良腫ヲヘテス膏藥カフ
レヲ治ス熱ヲ散

一ツリヨルリヨウロン 温性白百草ノ油也
琉球百合草ト云是モ取様口ウサ同前
能ハ第一筋ヲ延ク良難去ルル腫ノ下
油温メテ塗付シハタヤスク産スル也

一ツリヨサシホクシ 冷性海



此油、密に交へ吞せり。味、
喜て受て良ス。ハ則、虫にナリ腫物
金雞、類。此草煎洗へハ虫ト鼻カ除
て能成也。惣ニテ脾胃ノ菜寸白ク、
美也。紅毛朝腹毎酒ニテ入テ吞ル
ナリ。此五十年以來、良サホト云々
知りタルナリ。其子細、軍有テ手負
死人多ク有テ。此草ノ中、タラシク、
ナリ程ノ者ヲ十五日程シテ後至テ
ハシハ辛負タル者ハ疵不痛死人、身
全タル有タリ。則辛負共ラヤウシヨラ
シタルハ一人モ不誤本復シタリ。其時
此草用更甚ナリ。イタリヤト云國ノ
カ、海ノ邊、是アリト也。
一、シ、リ、ヨ、ア、フ、セ、ニ、テ、
取、ル、ハ、六、生、乾、ニ、刻、鉢、ニ、入、リ、研、ホ、ル
ト、ル、油、ヲ、入、ス、リ、立、ツ、ホ、入、三、七、日、
布、ニ、テ、シ、メ、テ、取、ナ、リ、能、ハ、氣、乱、タ、
ク、宛、用、産、後、良、不、食、シ、ム、子、ツ、カ、
タル時酒ニテ用テ良

一、シ、リ、ヨ、ア、フ、セ、ニ、テ、
油取様メシテ同前能ハ虫下シナリ
右如此積虫腹中有テ患者、右ノ由、
二三露裡宛吞せテハ、
白虫ハ

此油、密に交へ吞せり。味、
喜て受て良ス。ハ則、虫にナリ腫物
金雞、類。此草煎洗へハ虫ト鼻カ除
て能成也。惣ニテ脾胃ノ菜寸白ク、
美也。紅毛朝腹毎酒ニテ入テ吞ル
ナリ。此五十年以來、良サホト云々
知りタルナリ。其子細、軍有テ手負
死人多ク有テ。此草ノ中、タラシク、
ナリ程ノ者ヲ十五日程シテ後至テ
ハシハ辛負タル者ハ疵不痛死人、身
全タル有タリ。則辛負共ラヤウシヨラ
シタルハ一人モ不誤本復シタリ。其時
此草用更甚ナリ。イタリヤト云國ノ
カ、海ノ邊、是アリト也。
一、シ、リ、ヨ、ア、フ、セ、ニ、テ、
取、ル、ハ、六、生、乾、ニ、刻、鉢、ニ、入、リ、研、ホ、ル
ト、ル、油、ヲ、入、ス、リ、立、ツ、ホ、入、三、七、日、
布、ニ、テ、シ、メ、テ、取、ナ、リ、能、ハ、氣、乱、タ、
ク、宛、用、産、後、良、不、食、シ、ム、子、ツ、カ、
タル時酒ニテ用テ良



下ニ沉ク浮タル水花一ナリ
腹中ニナリ腹立時酒少宛
ノ良根聚ニモ用ヤク同前風引
時ニヨシ宛用腹中ニ凡有暗射水煎
汁カ又湯ニテモ用痰出ル時モ湯ニ
用小使結シタル時モ湯ニテ用
ナリヨヘシリ 温性小茴香油ニ
實ニモ葉ニテモ取ナリ葉ニテ取ハメ
テ同前 能ハアナイテヨリモ和カセ
様同前
一ヲリヨア子イテ温性イノント草油ニ
取様茴香油同前 能ハ第一痛シ
止冷タル所ヲ温ク中凡ニ良根良
一ツハヨメカクタ 熱性肉豆蔻油ニ
取様燒酒煎ル如シテニキキノ口不綿

二三寸ナル指置ハテハ上ウ
ツセ煎汁ノ水ハ腹中ニ下ルニ宛
用テ良油裡強ハ無トニ亦肉豆蔻
シ粉ニメシテシメ本ニテシメモ取
此油ナシク強シ能ハ腹中下ルニイテ
ノ花ノ蜜漬ニ此油五霞裡入用シハ
止ル也右ノ漬物ナキトキハカセイ名宛
テ一テ良息ニシカクセメキスワフキ
右ノ右ノ上置自然ト吞入ヨ氣強
スルニ遠走テ息セリクモ良痰ニモ良
温酒ニテ用夜子イテシカク良
一ツハヨメカリヨウフレモ 熱性子油
ナアカラテ云
花ヲナマリ粉ニメ肉豆蔻同前
能ハ第一時温塗付テ良



ハコ取シ溢ル中、凡そ此等凡脚氣
良酒トハ、寒入テ、凡そ智慮多ク
ナリ、出喰、齒ニ良齒クキ、腫痛、理
ノ油ト合塗付テ良。

一ヨリヨシシメシテイナ、熱性、搗脂油
取、搗脂二竹、油壹斤、入煎トカシ、及
腦一十司、ハ能ク世合テ、布ニテヨシ、使
能、第一、疵ヲ能、噉肉シヨク、アクル、平
足、屈シテ、歩行ナラヌ、時カモメイ、リ、シ
ンク、テ、イヤ、ミ、加味メ、塗付テ、良、筋、切
難ナル、眩ハ、患ム、廻リ、塗付テ、疵、ノ、工
ニテ、ヘン、シ、イ、フ、ン、シ、付テ、良、脚、氣、
良、折、牙、不可、付、諸、淋、良。

一ヨリヨシアルド、大熱性土油ニ

此油日本ハ紅毛傳南蠻方トテ、田中
谷ニ有金色ノ水ニホルトカルノ油ヲ入、赤
月ヲ經テ、煎ル、凡そ説アル、凡そ不、諸、不
油取、様ハ、無ア、テ、ント、之、國、ノ、山川、ノ、流水
ノ上、浮テ、流シ、取ト也、故、其、一、取、者、此
油ヲ、取、為、計、山川ノ、邊、居テ、取、ナリ、又、
谷、ト、流シ、留テ、有ト也、日本、ニ、テ、
越後、東國、方、バ、有ト也、能ハ、中、爪、良
筋、氣、脚、氣、良、冷、タル、ト、コロ、ヲ、油、ナリ
女ノ、脇、下、コ、ワ、ル、取、塗、付、テ、良。

一ヨリヨシイテシ、熱性土油

取、様、赤、石、ヲ、酢、ニ、浸、炭、火、ニ、ク、ハ、ミ、
ハ、ヤ、ミ、浸、シ、焼、テ、取、紅、八、度、ヤ、キ



ハキ粉ニメオ
油ニ置
其後ハヤテコシ
但煎
良白石ハ寒ナリ能ハ
寒一湿氣去

一ヨリヨカンフラ
執性龍胎油
取漢ハ先茶碗
蜜ヲ入其上
神燈
ヲ入ヨクスリ合蜜
ヲヨキ加減
入其後
ホトカルノ由ヲ入カキ
交其々ニ布

テ 使能ハ疵良瘡ヲ
愈ス
一ヨリヨスクシイ子
執性琥珀油
取様ハ琥珀ヲ能粉
ニホルトカル油
浸置テ茶碗ニ入
口ヲ紙ニ張火ヲ

ソコト煉ナリ二時程
メ布ニコ
取也能ハムササ
ワキスル時酒ニテ
二ニ露路用テ良
臟腑ハ月ニ酒

ニテ用テ好女ノ長血
ヲ出リカヌルト
キ湯ニテ用良
癩癩モ少宛湯
ニモ水ニテモ酒
ニテ用テ良小使
結タル時ハ茴香ノ煎汁
ニテ止宛
用頭痛シ頭重ク鼻血
出ル時指
サキニ付テ鼻中ニ塗テ
良産後
血上リタル胎吞テ良
鼻下ニ塗テ良

一ヨトウセス 温性乳香油
取様ハ粉ニシテホルト
カルノ油ニ浸シ
茶碗ニ入
口ヲ紙ニ張煎其
俟布ニテ
コシ使能ハ第一疵
良痛ヲ止能
煎
凡ヒキタル時二三
露湯ニテ用テ
ヨシハク上ル

一ヨリヨアラシイ
ウロム 温性密柑油



取極度シ刻ニ七日程水漬腐シ
テアテニテアテキ煎ル如取
豆蔻同前能ハ冷タルハ塗
良胃ノ疇風有テ患ハ

イテノ油ニ加ヘテ用テ良疔ニ好
一ツリヨセイラ 平性蠟油ニ

石 蠟ヲサラト煮立ホルトカル
油蠟ヲサキカキ交布ニテコシ使ハ

第一能ハ生強堅スル也筋氣ニテ
腫痛塗付テ良身内何シノ疔ニモ

不仁成ニ塗付テ良疔ニゴフラカ
シテスクミタル時ニ塗付テ好

一ツリヨメルテロウレン 温性挺實油ニ

取極ハ上皮ヲ去粉メ蒸ラシメ本ニテ

シメテ取ナリ能ハ金瘡腫物ノ肉ヲ上
時イヘリコンノ油トホカ合温付レナリ

第一能ハ紙ヲ治メ古瘡古腫物ハ
患キ油ト云傳

一ツリヨロウリイ子 温燥性タフハ油
取極四五時分多取テホルトカル

油 金ハ入ルノ質ヲ入テ辛ニテモ三十
ヤ置ハ此精液油ニ移タルヲ布ニテ

コシテ取ナリ阿蘭陀國ニテ殊外
月ル油ニ能ハ身内何ニテハ木石

ナトニテチクホメタル疔ニハ満合
又高ク上リタル疔ニ付ハ平身



成甘引鉛油三本一加付ハ八煎良
鳥獸印点一切ノ毒類ニ食レサ
ルニ良又食胸ニツカハ吐レヤクスル時此
油ヲ温水落ニ付テ良箭ヒキツル付
テ好

熱性肉桂ニ

取様上皮ヲ去テ刻粉ニシテホルル
カルノ油ニ浸口ラシテ風ヒカヌヤリニ
メ置其後煎布ニテコシ使琥珀油取
知ク煎メ好能心氣不足ノ者良假
七情ノ欠動演シ心血散心氣難治
月浪姪ノ女五ケ日明分ニ怒更カ笑

更ニ何ニテモ過テ胎脫ヲ致用サ
萄酒ニテモ常ノ酒ニテモ用母ノ氣ヲ
強シ胎ヲ堅テ不脫ナリ氣テカ
モ良惣テ心ヨリ發病ニ良

一リヨエ子ツヘシ温性ツナシ木ノ實ノ油
取様タフノ油一取ト同前能ハ小便必
結 付石淋良五露裡酒ニテモ湯
ニノモ用産後ニ跡腹セツカメハイマ
十ト不下四五露裡酒ニテモ湯ニテ
モ用好

一リヨエ子ツヘシ温性維タノ油ナリ
取様ヒツ子ヲ丸下カラエテ使テ急
白味ヲ除テ黄汁ニ研テ鍋ニ入煎



取^テ生^ニテ^ハ時^ハワリ^テ白^ク踏^ク捨^テ
黄^ク計^シ、^テ女^ノ髮^ヲ落^シ入^ル野^ノ氣^ノ花^ノ油^ヲ
シ^テ入^ル三^ニ七^ニ日^ヲ程^ヲモ^シ置^キテ^ハ其^ノ後^ニ煎^クシ^テ毛^ヲ
取^リナ^リ能^ハハ^ク寸^ハ白^ク虫^トキ^ニ入^ルタル^時付^キ
ハ^ク腹^中ニ^テ治^ナリ^テ蓮^ノ跡^ハ毛^ハ不^ク生^ズ付^キ
ニ^テ毛^ハ生^ル氣^ノ腫^ハ瘰^ハ瘻^ハ未^ダ破^レク^ハサ^ツキ^キ
右^ニイ^ハ々^々塗^ル付^キ其^ノ上^ニス^ルキ^ニフ^ラ
ス^カメ^リリ^ロウ^トカ^付レ^ハ治^ス面^草
カ^イ々^付テ^ハ良^ホヤ^ケニ^モ良^腫
堅^キニ^テ塗^ル付^キレ^ハ和^ムカ^ナリ^リ
一^ツリ^ヨセ^ニイ^フラ^テ熱^性生^姜油^ヲ
取^ク様^ハ生^姜一^斤上^皮去^テ搗^リ研^ス

ホ^ルト^カル^ノ油^五合^ニ浸^シ一^七日^ヲ置^キ
煎^シ水^ノ氣^ナキ^時布^ヲテ^コシ^使能^ハ
ハ^ク風^温ヲ^散ス^温テ^ハ痛^ヲ止^ム頭^腹中^ニ
十^ト冷^テ鼻^汁滴^テ迷^惑ス^ル時^ハ
酒^ニテ^ハ妙^宛用^テ良^珠外^冷テ^ハ鼻^ノ
ヒ^クイ^モ不^成時^ハ綿^ニ付^テ捻^ス
ハ^ク香^聞ナ^リ又^ハ咳^氣ニ^テ換^有キ^ニ

一^ツリ^ヨホ^ス 熱^性狐^ノ油^ニ
取^ク極^皮ト^腸ヲ^去テ^ハ身^ヲ細^ク剝^ク
水^ニ入^テ煮^油ハ^五浮^リ目^ヲ日^ヲヨ^ク
セ^テ取^リナ^リ亦^ハ忠^慮流^ハ狐^一
走^右ノ^如刻^水又^ハ弁^ホル^トカ^ル油^ヲ
二^斤入^テ茴^香薄^荷イ^シト^谷一



櫻程完入煎シ水氣除テヨク有
ニテコシ使此油一系ニテ筋延ニシ
能ハ筋氣中風痛時塗付良
是足シル処好血廻ラバ凡処塗付
シハ則時血廻シテ良
一ツリヨタマス 温性程油ニ
一ツ 櫻程モ能モ石同前

一ツ ヨカアメ 燥熱性大油ニ
是ハ油所ヲ煎テ取又右ノ如クモ取
能ハ老人ノ筋痛ニ余ノ油ヨリモ良
玉子ノ油ニ加テ寸白ニ付テ良
一ツリヨラウラ 微温性金油ニ
取様ハ塩硝硫黄鹽ヲ加テ燒金
ノ粉ニ成マテ更々今煉也右ノ茶
ノ内一味ニテモ多ク有時々粉ニ不

成トリ能燒粉ニシテヒイトロ臺
入破ニ埋置テフラスコヲ燒ワラヌ
ヤウニ破ノ下ニ火ヲイケテソロヤト
燒ナリ此烟計フラスコニ當テ其ハ
津液ヲ油ト云ナリ故ニ阿蘭陀國
ニテモ天子將軍諸侯富貴家ニ
計取ト云傳タリ予曰此油右ノ
一ツ 液ヲ由ト云不審ノ右ノ如ク粉
ニメホルトカルノ油ニ五十日程モ積
置テ煎出シ使テ可然シ能ハ天
ノ惡氣當テトシ死スルヤ在ニ古
ノ上ニ少計置テ水ニテ滴入テ良日
腫ノヤナニ身内何時ニテモ黒ク
為忽ニ死腫物出生シタレ侍右



上ノ計嘗テリテ又腫物ノ短シ
付ルニ其後鯨ノ尿ヲ一合程能
テ思テ好

一ツリヨルノト 温性金油ノ代

使油ナリ 取様ハ口ナリイ子ト同

能ハ金油同前併テ癩瘡ハ不

可金油ハ癩毒ニ塗付テ良此草ノ

生テ食テモ又油ニメ用テ何回

へ行テモ悪キ凡ニ不當頓死セサ

トノ阿蘭陀國ハ蘇國ニテ悪凡

メ人俄ニ死ル夏有ヨリ右ノ草ノ油

ヲ用又ヨ遠道ヲ行テ草卧タル

時ニ道ニ卧テ毒虫ナトニ食シタ

ルニモ此草ヲ食シタルニモ此草ヲ

食シタル日ハ痛夏火毛無トナリ

身強ナル故ニ毒身内ニ不入

毎朝用テヒキトナリ草ナキ國ニ

テハ油ヲ取テアアセシテヲ加ヘテ毎

朝用セ

一ツリヨルノト 寒性鉛油ニ

取様ハ金油同前能ハ瘧疾傷

毒熱甚クサワクノニ此油四五露

程水ニテモ湯ニテモ用ナリ火瘡

身内何処ナリ凡黒ク成夏有

其此油ニ唐土ト醋ト合テ付テ良

一ツリヨルノト 熱性フシユカンノ皮ノ油ナリ檜材同

前能ハ腹中痛サケニテ此油

二三落用テ良食不進時ナリ

同前



一ツリヨハインニ 熱性麻仁油ニ
取様粉ニ蒸テシメテ取ニ能
第一筋ヲ延ル焼取モ好トニ

一ツリヨカフト 冷性白芥油ニ
取様口ウサノ油同前能ハキ足
熱有テ腫痛時塗付テ良折
分ニ熱氣有時塗付テ良脾胃
熱有時温メテ水落塗付テ良
惣別此油痛止ナリ

一ツリヨヒイテルヨウリウ
大熱性膽岩油ナリ取様ハ粉
シテホルトカノ油ニ浸シ一七日置テ
布ニテシホリ取也能ハクシク腫
物着ニ付ル也痛ヲ取テ膿ヲ去テ愈

ナリ食不進時花蜜漬汁ニ
ニテ少用脾胃冷タル時モ用様同前
下血ニモ同前喉渴キ煩時ハ菊ノ
酒カ水カニテ用シヤクリモ水ニテ用
吐逆ニモ水ニテ用脾胃痛煩時液
花蜜漬汁カ難キテ汁ヲ粥ニ
ニテ此油ニ露用此油ハ強有故
一匙不用但油ヨリモ臭ニ石水ニ

用テ好

一ツリヨスルフニ 熱性硫黃油ニ

取様膽岩油同前能ハ煩ヨリテ
息メエシキ時酒ニ露用凡
ノ油ヨリ 和ニ有是故ニ多用テ不
各用様大ニサレ油同前小蒸



塗付テ良

シリヨキヨハメス 温性木瓜油

取様竹カニテ刻ホルトカノ油ニ浸シ

三七日程置テ煎布ニテヨシ取ニ能

第一箭ヲ延

クリヨセントヘ 温性蜈蚣油

取様大小ヨシヲ取ホルトカノ油漬

腐カシ布ニテヨシテ使能ハ諸毒虫

良大腫痛ニ塗付ル虫食菌痛諸

止ナリ

シリヨコソフルルニ 温性蚯蚓ノ油ニ

取様山蚯蚓吉又ハ搔林九年母

木ノ下ニ居ルジ多ク取テ葡萄酒

漬一夜置翌日ホルトカノ油ヲ入

鍋ニテ煎酒除テヨリ布ニテヨシフ

ラスコニ入ロシ能シテ置日数経テ

使能ハ手足冷テスリムニ良諸痛

シ能止ル足冷スリムニハ此油ニテヨシテ

シメンテイナク加付テ良肩痛

ニハ此油計付テ良筋痛ニ良

ハルサモ 温性合油

言様能胃五々琥珀七西捨脂

十西此ニ味ヲホルトカノ油ニテ

能加減焼合使也能ハ切疵突疵

諸疵ノ菜ナリ筋痛ニ是ヲ温

ニ塗付テ良ウツキ菌ハ楊

枝ノ房ニテ指テ良其痛ニ良

ニ塗付テ良ウツキ菌ハ楊



蕪ノ跡ハ同切分跡何ニモ光有
テ見若キ一取有ハ其一取ヲ針ニ
破此油ヲ付しの本好ク成ナリ

一ツリヨムスラキニラス 温性合油

合様ハ菱根サ兩胡盧巴十兩麻仁
拾兩此ニ味ヲ粉メ熱湯五合入カ
キ交一夜置テ翌日温コシテカスラ
ナス其汁合ニルトカルノ油五合程
入カキ交テ煎五合ノ水除テヨリ使
ニ能ハ筋ヲ延堅リク和ケ冷テ痛ヲ
治ス

ツリヨムカキヌシ 温性ヤツクハモ油ニ
取様四月於合殊暗夜ノ吉是ヲ
坐テ約ミテツキ所ホルトカルノ油ヲ

入並取ナリ解、第一ワマロ良膏

茶ニ入油也

一ツリヨソフアトシ 寒性小茹實油
取様口ウリイニヨ同前能ハ第一
熱性ノ物ヲ押散

第三水取様并能之夏

一ワフトロサアロシ 寒性白イハラ花
取様花ノ塵ヲ去テ四十日清水一
升入テシキテ煎シ露去合裡出
タル於ニ跡ハ捨ルナリ風ヒカヌヤウニ
所安ナリ能ハ第一熱ヲサニス面
辛足 塗付テ皮膚層ヲ能スシ
腫物ノヒニメキヲ止同血ノカリ



ムルヲ此水ニテ洗テ良

一ワアトロキリセウニハ寒性金銀花ニ

取様右同前能ハ古瘡洗ニ良温

テ付レハ筋リ和テ疵洗ニ良

一ワアトロタンテヤアセシ寒性魚前草水ニ

取様ハ葉ヲ剉右ノ如ク取ナリ能ハ靴

ノ腫物押散花ノ水ト合塗付テ良

一ワアトロアキリセウニマ冷性地榆草水ニ

取様右同前能ハ疵腫物洗業

一ワアトロヒイテルヨウリウ

熱性膽若水ナリ取様ハ粉ニテテ行

水一鉢入カキ交三日月裡置テ其

後ニ重ラシヒキニテ燻酒煎ル如ク

取ナリ水六合裡出タル於跡ハ捨ル

ナリ琥珀硫黄肉豆蔻肉ニ何テ

モ水ノ取様同前ナリ能ハ食不進

於イハラノ花ノ蜜漬汁ニテ又宛

用テ良脾胃冷タル於モ同様同

前下血モ同前唯カワキ煩於ハ

葡萄酒カ又ハ水ニテモ用テヨシシ

ヤクリニモ水ニテ用吐逆ニ同前

脾胃痛煩於ハ茨ノ花ノ蜜漬ノ

汁カ雞ノ水煮ノ汁カ又ハ粥

ニテモ二三露用テ是此水ハ



故一燕小不用能，油同煎似
油可引八，引之，去，噴齒，塗，亮

阿蘭陀仕掛

癰

癰所發一身雖無定先兩眉之午
打掛或後首，烟髮際，隔，癰
者先癰，可心得初癰，三常有
如瘡腫上，如自汗見，五惡寒
癰熱，大便結，是癰症也，阿蘭
陀，雖無灸治，日本，用，良，故，腫
物，上，痛，覺，此，程，可，灸，壯，火，一
下，三，引，針，火，出，血，不，苦，又



チヤヲ 拵テ イシヨトトハシガク
エケフチヤノコシ等分加テメ
チヤノ上ヨリ赤身廻ハシハシ
シ直ニ塗付ホウレイ綿ヲウラハカ
具上、インハラストヲシヨシヨ
綿ニ厚クヘフタ膏茶ニシテ其上
木綿ヲタ、ミカフセ其上、綿
不落様ニ四五ハレモ巻也如石一
一度時分ヨリ二度宛モ茶ヲ可
付替服茶ハ大便ヲ通利サスヘ
然レ腫物潤ナリ其後ハ補

脾胃氣血須補ニテ良膏タル
肉ヲカキ、列掛切取具々、可
療治也若胸レ不止ハ黒カイルノ
ワタヲ取三十ホトニ巴豆十粒ホ
ト加黒燒ニシテ枯凡少加胸レ
ルニ貯ミヒ子ヲ入上ハハシリコシ
チヤニ塗一盃入上ノ任都右同前
也上ヲ巻一知常大破成疔人
クタヒレタル時ハ内茶ニ人參大
可用又雞ノヒヨコヲ水煮ハシヨウ
エニ味ヲ付十六汁シ一日、六
一盃ホト、死用テ良疔肉ハ



良是ニテ胸り止角
ケフテマアコンニエセワ以加ヘンノ
テロニ塗付テニ盃入上ノ仁掛如
右必是ニテ胸り可止是ニテモ胸
不止時ハ燒金ヲ可當膏リ此リ油
膿ニ成タラハイシクエントアホトロウ
ルンシメイテヤマニ塗付中ニ入上ハ
ンハラストカラサテイヤラ木綿ニ入
フタニメエツ卷一知右而愈肉ア
ラハレタラハイシクエントテキステイ
フシヨリテヤマニ塗中ニ入上ハカ
ラサテイヤラフタニスヘシ肉十枚
成タラハイシハラストテマハレツ本

結ニ伸是ニテ愈ヘシ虚証ノ腫
物故四十過限ニ入テ発スルニ故初
発ニ大便溲スルハ惡シ結シタルヲ
菜ヲ以下シタルカ良腫物冷ル時ハ
肉沉ニ腫物ヲワキ色惡クナリタ
ニ難治肉十枚ニナリテヨリハ
冷シテ良其ニヨリテ寒証ニテヤハ
レニ或ハホシホリコスヲ用テ愈スナリ
日本流ハ癰腫ノ類ニハ雜ナトハ嫁
トイハル阿蘭陀流ニ專用ニ時ニ
ヨリヤキハ羊杯類好切トハニ
外禁物ノ如常能ク柄入
ケテハ計入



瘡疽

疽ノ発様癰ニ似タル者ニ乍去腫然
ナク惡寒スルコトナク熱氣ナク何
トヤラシク発シタル一身ノカカイ
ナリ五日去テ氣クルシク惡寒ノ発
熱ス大槩心持癰ニ似タル者ニ乍去
癰ホト疼痛スル莫ナシ如此ナル時ハ
必下ハ腠レ深キ物之其時ニ針ヲ
用血ヲシホリ出ス殊外痛強ナル
ヲニ上レハ治易シ其時ハシリコンニ
ツフトウケリウン小豆粒ホト加メイ
テヤニ塗付針目ニ入其上癰ヲ

コトクハシリコン塗付上ニハストヲ
シコロシヨシ或ハイニハストハシリコン木
綿ニ厚ッ人ノ膏茶ニシテ其上ヲ
ホ綿ニテ能卷之服茶右禱同前入
參ッ大ニ加用雞ノ子ヲ水煮ニシテ用
右禱ノ如クシテ茶ヲ付レハ痛強成
テ堪忍不成者也其瘡癰ニ証ニ
右ノ任禱ニ用レハ一夜ノ内ニ膿ニ
クサレツク之其後茶付替ルトハ
口ツフトウケリウケシテ去エテアチ
ヤアコンニハシリコン加メテ
ニ用上ノ任禱右同前禱ニテ
刃ニツミタル者也



茶甘煎物ヲ引ニ 癖

カリ深キ者成故切トル一

已照リ不正ハカツタイ薑

腸ヲ不取巴豆十粒如煆ノ枯凡

欠如腫物ノ上ニ捻リ掛エケフナヤア

コシメイ子ヤニ塗リ内ニ入ツタ膏

茶茶石同煎胸タル肉ヲ切取時ハ

必出血スヘシクモ不苦秋原ヲコソ

ケ切目ニ付ル也亦石綿ヲ付

無也フタ膏茶茶石同煎茶脾

胃ヲ補腫物外ニ出シ腫^潤ヌ加減

專重ニ殊外沉ミタル腫物故

如此モテモ胸不^ハイニクエントテ

ヤルテイヤラメイテヤミ用上ニハ

エンハラストテヤルテイヤラメイ

ニヤミ用上ニハエンハラストテヤキ

ロンツフタ膏茶茶ニシテ上ニ^巻

已必ス胸リ可止是ニテ胸リ不正時

ハ難治癰ニテカイ上ニシリカ腫

物ノ上ヒキクナラントホツスルニ其

時ハツハスミテ上ラ可温然ルハ

腫物潤ナリハツハスラ^腫ルノ上ニ

厚ク塗付上ニ^ハラスト

ロンツフタ膏茶茶ニ^ニラ巻



スルハ一夜ノ内、腫物上、

癰モ心沈ム一ツリ其時ハ

スッ付テ其如此、胸平、九時

ケンシトテ愈肉、似タルシ、云

一有是ハ肉ツヨクス大小アツク上

ヌレ紙ヲカフセタル様ニ有是ヲ愈肉

ト心得テ愈膏茶用ル一不可

有是ニ愈膏茶用エハ必胸

前成腫物悪敷ナル也一切腫物

ツカリ留リタリト云^云凡腫温氣残

レハ同氣ニシタカイテ破^ニ敬スル

者ニ必愈膏茶用エル一ツ函へ

シ俟腫リサレ吸トル膏茶ニ托ル

ツ大ニ加メイテヤニ可用ニハ

ニハラストカラサテイヤヲフケ

シテ上ヲ卷ナリ如此シテ肉十

分ニ成タケハテマホシホリコス或ハテ

ヤハルニシ木綿ニノ^一是ヲ以愈スナリ

一疽胸リ留リ七八分愈ル時殊外痔

タケ汁。出度アリ其時ハ伏奉肝ツ

粉ニシテメイテヤニハ不^ニ甘粉茶計

ニ肉ニ一盃入上ニハテヘンシイフシラフ

父膏茶ニ良痒サモ止リタハ汁

モ不出^ニ其後愈ス一^ニ此^ニ切腫

物愈キハ^ニ此^ニ有^ニ右ノ仕^ニ割

テ良



疔瘡

疔瘡発ル所一身無定先之定而
発ル一也発様雖品多味
物発色ハ薄紫ニテハリノカン
高テイサキ物之収上膿ヲフクミテ
見ルニ是モ惡寒シ目ノ内カワキ大
便秘スル急ナル時モノ云一不叶是
疔ト心得面ノ内ナラハシトカイ弁
キニ引炙ラシテ良腫物ヒカスハハ
シリコンニエケフテヤアコンヤ如ヌリ
トハイシハラストハシリコンヲ末綿
ニノヘフタニメエラ巻テ如膿系ハ熱
氣ヲサカス加拔ヨシ病人草下

時ハ癰疽ノコトク内茶ヲ可用食
物モ右同前南壘阿蘭陀流
ストイハモ日本人ニハ用テ良日本
石流ニハ諸腫物ニ色ミノ名ヲ付腫
物ノ合テ有ト云凡阿蘭陀流ニ疔
ト見時ハ何モ右ノ仕掛用ニル
只大隻ト云ハ腫物カキ色黒ク肉
沉ミ病人熱氣強大使溲早草叶
ルニ如此有時ハ必死病ト可心得也
々雖有口傳ケ様成者ヲ大隻トセヨ
手足ニ発タル疔ニハ則ニ是ノ外
灸ラセヨ日十流ハテラ用ニハ強物
カワキ沉ミタカトニキワト云
ト阿蘭陀流ハ熱氣強クハ使



秘結ルルニ時ハ下シ用テ良

下シ方

自挑ノ花蜜甘ノ汁

小茶

大黃 六分 蘆會 二分

細末シテ一ツニ入フトウ酒ヲ以テ用テ
ナリニ三度下リテ後カエテ用テ良
可ク止内系ハ脾胃ヲ補フヘシ如右療
スレハカワキタル腫物ハ潤モノリナリ
如右茶ヲ甘エニフクミタル膿ヲノケ
ハ冗ニモ見エテ後ハ皆一ツニ成灸
証ナトクヤフル也少モ不苦是疔
証ナリノ其時ハメイテヤツ灸ノフ

ノコトヲ梅毒胸ニ吸取油膏ニ系
ジメイテヤニ用上ニバカラサモイヤ
杯ヲフタニ可用ケキニ腫多ク赤色
ニ疼痛セハアルフンカンフラスト杯
ヲ付テ舌是疔瘡ノ治療ノ大緊
也小使ヨリ下スニモ有諸書ニ有

氣腫

氣腫所発如常此証ハ氣虚ニ虚ニ
身ニ発ルナリ欠ノタカアル故ニ上焦
完得胃腎經ニ補氣ニ益加減
良外ヨリニシカミメテトシテ
ハリヨニサアトシリヨリヨリ



右等合ニアタメ塗付其上
サテイヤテヘシシノアシテヤル
等分交不綿ノへ上ニカテセ
如此六日許付不散ハ、リヨ
メリロウトラ、リヨカモメイ、
各ニテレメンテイナクエ油トカヌ
リ付上ハムステキニアスナト付
テテ良若此コトク数日療治シテ
モ不散ハ上ハシリコンニ下子ノ油
土油各少宛ヌリ付上ハシリ
ロシニカメリロウトラカエムノカ
木綿ニ厚クノアタメ可用是テ
軟澹湯ハ平ニ成膿腫物ハ、ク、

高ノ成物ノ氣腫癰瘰類ニ、

ヨリシイテ針ニ破リ或ハ毒茶
ニテ破ルニ患シ只和テカ成印膏
ニテニテ補テ付タルカ良内茶
用ル一專要也若久シク有テ膿
ニ成タテハ少口ラアケテメイテヤ
ラサシ知常腫物ノ療治ニテ良
メイテヤ長クシタルハ患テカリ
シテ良

一 癰瘰ニ任掛氣腫ニ替ル一ニシ必朽
是ノ押散ス心持ニテ其ヲヨク有
カニテス何時モ氣腫癰瘰ノ類ハ和
カニ散次ヲ膿以テ任掛良人



ツロル腫物後ハ病人草即
其時ハ雞トトツ水ヲ用
之ハサホニ人矣多シハ可月
腫瘰癧ノ類ニ歳ヨリ内
カル者也ソリニ實証ノ者ニナシ氣
血ニ虚シ或ハ腎虚ノ者氣スルニ
瘰癧ノ症久変ノ腫物故心長ク工
夫專要也一切ノ腫物年久ニシク
愈兼古ク晒リモセサル時ハ心筋
物ニ雞蹄牛牛羊ノ類病人
好汝才ニリヤウリメ可思内

茶ニハ參ヲ大ニ加用外治ハハ
リヨシニ白蜜ヲ加煉合メイチヤ
ニ田上ニハラシコロシヨシ杯ヲフタニス
ヘシ亦右ノ洗茶ニテ洗テモ良也
ニテ腫物ウルラウ也其後其ニ
治シカエヘシ腫物ヲ新敷ナシテ
愈ストハ是ナリ

風毒

風毒腫所発此定告股ノ内ハ或ハ腫ノ
廻リニ有乾痔内ノ風毒ト云フ
痛強ク甚寒ニ至ス急ニ不救ハ



必液ハ腫内ト成胸レ深キ者ハ身
色ニシテ少ケソレモ終痛ハ
ニテ押テ見ル痛所ハ心ニキリメ
テ痛強メ必スツコニ梧
ニメ指ニケリル者有是風毒也
発シテ四五日ノ内ナラハラハツミラ
イシユンヘイヲ塗付上ニテヤハルニ
ラフタニ用上ヲ卷一知常如此
一日ニ度フニ三日モ茶付易シハ
病止リ凡氣去腫物必平愈
是ニテ痛不止ハラリヨカモメ
イリヲリヨメリロウト等合

ニテレメンテイナ少如ヌリノ付
上ハムスラキニフス杯ヲフタニ
メ良卷一知常如此五七日モ
茶付易テ不敬ハ必ウヘシ其
時ハシリヨシニ丁子ノ油ヲ加テ
キ時ハ玉油何ニテモ熱証ノ油加茶
メ直ニメリ付上ハインハニストヲ
シヨシヨシ本綿ニ厚ク塗付フ
タニシテ上ヲ卷コト強角ノ茶腫
物ノ集ニハス加杖ニ然ハハ
腫物ウツキ強ク熱ハハ



大匙クルシナリ不若ノサホ
度モ付易レハ必程作ルハ上様
也此膿タニハ針ヲ用膿
口開テ治方癰疽ニ同節ノ物寒
茶ニテ不散時ハ熱茶ニテ散
有熱茶ヲシキリニ付テ腫物口不
破トキ寒茶ニテ破ルノ有右ノ
膿モサホ付時ハ洗茶ニテ腫物ヲ
温メテ水氣ヲ拭イ取テ茶ヲ付
レ膿ヲ速也

洗茶方

セイヤメ子ケレテイ 各三錢

肉桂 丁香皮 各五錢

テレメンテイナク 水五ホ入ニホ

煎シテアツクシテ腫物ヲテ

洗水氣ヲ拭取テアタカナル

内ニ茶ヲ付ルニ上ヲ可温ニ

附骨疽

附骨疽

癰疽風毒ニ似タル物ハ腫物

腫物故凡毒ヨリモ大變ナリ



悪敷療治スレハ一ニノ間スル
人ト成此腫物ハ膏ト肉トノ間
ニト夕冗トテ和カタルカアリ
内損シ骨ニ癩付ナリ後症ノ瘰
物故内ニ有テ痛強クソコハ沉腫
物之故成ホト上ニ引上ル療治内
茶共ニシテ良外治ノ方先熱症
油膏ヲ茶ヲ温メ能ク塗付上ニモ
又熱膏^{ヒヤク}茶ヲ付上ラ巻テ如常
如此メモ痛不止ハ蒸茶メ其
後七ノ茶ヲ可付多分是ニテ

痛ハ散ヘシ若不散ハ急ニ引
上可ク膿々タラハ針ヲ用膿ヲ出シ
又々ニスヘシ腫物ヤフレテ後治方
汎毒ニ同久敷掛リ草卧タラハ
雞ヲ用夏如石云々大ノ内ヲ茶
ヲ可用惣テ大破成腫物療治
ノ時弁膏茶ヲスイ合不^ハ指澤
山ニ付テ肝粟ニ

下疳瘰

枸橼^{クワ}ノ汁^シハ腸^{チウ}ハ^ハ好^{コウ}分^{ブン}茶^{チヤ}
付テ良亦カシラアトニ燒明礬^{シヤウメイラン}如付



形赤トシエントラマハルマ付良
初発ハ多分寒茶ニ 然也亦

阿仙茶 三錢 栝樓根 一錢 白

輕粉 三錢 丹礬 一錢

右赤シテ捻樹ニ良若瘡痛時ハ口
ウサノ油ニテ付テ良右ノ如クシテ毛
瘡不愈時ハ茶ヲ不付メ下焦温ル
朕茶一七日モ可用然レハタワ付益
腫益ナリ其時凶茶ヲ止エシヤ
ロウヘラヒヤウラステヨクニ 泉醋
五露蒿種ノ根小葵ノ根 菊ノ
花葉ガニテ煎木綿ヲ湯キ

シテ 痛タル所ヲ洗水氣ヲ成ホ
ト取石ノエシヤロウヘテラシメ付ワ
タウハクカフセ其上ラテテアノスコ
モリクウリヨシニ綿ニノカフセ上
ヲ巻一 如常 是ニテ瘡リ可止
若瘡不止ハインクエントハシリコン
ニエケフテヤアコン大ニ加ホツリニ
付シフセ上ニインハラストカラリ
テイヤフタニシテ否如此トハ月
茶ノ可付替エケフニ アコン
ニテ瘡強ハアホノト口ウラニ付
モ良瘡止リタニハコンアラフトテ



口エタラハ経ラ用サニ間ニ下ラ用テ
良右胸リニニサリ一洗テ

乳香 没系 枯凡 各三錢

桐油 二錢 古タハコ 五錢

蜜ニテ 右水ニ并入一ホニ用洗

右胸リ除テ後洗茶ノ方

枯凡 忠冬 各五錢 苗六分

小麦 各三錢 乳香 二錢

右如前藥シ洗付茶ニハニシクニ

シトハシリコシニエケテヤアロシヤ加
イテヤ用上ヨリハシリコシツタ
ニスヘ知此一日ニ一度二度宛サテラ
付替テ良膿ツ中テ愈ス一知学

標疽

標疽物発ハシリカエク後痛毛付

茅蜈蚣ノ油無之時ハ口ウサノ油塗

付上ニハチヤハルニシ泉醋ニテチヤ可

付初発ハタニ是ニテ散テ初不正

ハ其後ヲテニ吐ル一油

塗付テシヨロシシフニ是



痛不止モ甚苦ム時ハ針ニテ上ラ破
血ヲシホリ出シテハ針ヲニテ血ヲ
厚ク伸シツカト上ラ可モ甚苦ム
掛ニテモ痛不止時ハ甚苦ムニテムス
一モアリ甚苦ムノ方別ニアリモ
是モ甚痛時ハ下ラ用テ良如右
色々シテ不散ハ可膿其時ハ急
膿ヲ引テ針ヲ用膿ヲ出シアホ
ストロウルンシメイテヤニ用上ハ
カラサテイマラ蓋ニメ良瘡
陰ハエケフテヤアロコニラ加用瘡
ユリメラハフメ膏ヲ茶ハテヤハル
ニラ用テ良正肉アラハルニテハ
此イテヤニハアホストロウルニ其
後ハテキステイフン付テヤル
ニラ用テ愈スニ口明テヨリア
ホストロウルニニ白蜜ヲ加付ル

乳癰

乳癰ハ初身色メサシク赤ク
後赤サシテ痛強ク熱氣有初
乳癰ハ初身色メサシク赤ク
後赤サシテ痛強ク熱氣有初



若是ニテ不散ハハコハニヤ

雪下草の 大山外意ハ

右合口ウガノ油ニテトキ冷意ハホ

ウレイ綿ラエニカフセ其上ラテヤ

ハルマラ蓋ニメ良必是ニテ散ナリ

如此メ不散痛強意ハ寒ニ茶熱

有ハ膿ト心得常ノ腫物ノ療治

良シイテ針立ル一ト悪シロワラ

リ拵テボラ明タルカ良潰テ后

此方瘰癧ニ同乳ニ発タル腫物

ハ敷方テサシテ痛モナク後痛

強腫物破レ上ニ腫上ル一トモナク岩ノ

崩ルノ様ニ膿深ク病入シトウル

也大事ノ腫物ナリ治方瘰癧

同洗茶ニテ内ニシ洗ス夫々ニ仕掛

テ良内茶ニ又ニ参ラ大加用ニ雞ラ

拵毎日用氣カラ強シテ悪内

ヲ切取ツレクニ仕掛テ良ニ同

々ニ下ラ用テ良ニ傍ニ瘰癧ノ患

實シハカルハシ色ハノモ痛不

此時ハ右ノ乳瘰草葉又茶



シコウオノ油ヲ去白蜜ニテ
煉メイテヤ屑上ノ仁科。瘰癧
同多分是。テ瘰癧止。愈。肉。二
肉十分。成タラハテヤハル。ニ
可愈

蓮

一切ノ蓮癩深ク愈カタキ時ハ腫物
ヲ新敷メ夫々ニ任掛テ好大緊
治療ノ方先雞水煮メ醬油ニ
味ヲ付一七日用腫物ニハ洗ヤ素ニテ

バウ洗ヘレスヒタアルヒチリヨウル
ニ等分ニメハシリコン灰加メイテ
ヤニ塗内ニ入上ハハシリコン直ニ塗
付ホウレイ綿ヲウスリサフセ
ヲ器シヨシ蓋ニ用上ツ卷コト如
常ニ内葉ニハ人參ヲ大ニ加用
テ良氣カク強クセサレハ療治難
成ケテハ不足ハスハ不若。蓮
ハ大事ナリ久敷不愈ハ以テ
此腫物和カ成任掛ニテハ念
了ナシ病人モ氣カク強ク升



科モ氣ニ盛ニメ瘡治セサ六難
愈エケラナヤアコシラ油ニテカラ
リ、キ立温水ツキ、ハ内
能洗右如ク茶ヲ付テ良惡肉
ハ丈々ニ切取ヘシ癩深クハ右ノ粉
茶ヲ真ニ檢掛エケフテヤアコシラ
メイテヤニ塗付上ノ仕掛右同
前実証ノ人ナテハ下ニテ用テ良
右ノコトクメアテリノ痛強病人
草卧時ハ又雞ヲ用ハシリコニニ
白蜜ヲ加メイテヤニ用テ良
氣ヲ可補其後又右ノ仕掛
ヲ用良氣ヲ可補其後又右
仕掛ヲ用テ良毎日洗ハホテ
洗テ可付ナリ腫物ノ内ニ竹ノ
根様ナル物アリ交ラ能々切取
ヘシ惡肉去テ治方如常

癩瘡

癩瘡ハ愛思過多証ナリ氣
滯レハ血モ亦滯ル故癩ト風
阿蘭陀流ハ上ヨク立ワリ惡
物ヲ出シ文々ニ瘡治入自然ハ



切破テ血定テ止リ兼ル一有
此故ニ和ニ温メ痛ノ上ニ灸ラニ其
跡ニ少針ヲ用コトウリウシ
大豆粒ホトニメ針目ニ入エハ
何ニテモアシノ強キ膏藥
ヲ蓋ニモテ口フトウリウシ
ノ不動様ニシテ良如此存
日ヲ未可付必針自ヨリ痛
出破ル也其時内ノ惡物
ツソロツトコソケ出シアホ
ストロウレンヲメイテアミ塗
可指生肉ニ成タラハテキスラ
イフンニテ肉ヲ上ケ愈ス如
言也

寛文拾年戌極月廿日



阿蘭陀金瘡仕掛

疵者先焼酒ヲ温メ洗切針

ニテ可縫糸ハ麻糸也縫様

者先真中ヲ一針縫其後

兩ノ眼ヲ疵ヨリ三分四合五

分ホト向シ置縫切々々可

縫糸ノ結様ハニツ宛可結焼

酒ニテ洗指テ血ヲ能取可

縫仕舞針目ヲ手ニテ押

ヤラシ椰子油ヲアタメ疵上

疵ノ口其邊ヲ能洗至子白

味ヲ三ホトツメキ淡ク去下

沉タル水ヲ取椰子油等分

ニ交合木綿之ホツシニ能付

疵ニカフセ其上ニ木綿ヲ疵

ホトニ切右之油ヲ木綿ニ浸

シ返戸フセ其上ヲ木綿ニ能

巻ナリ如此シテノ五日ニ疵口

腫ヘリテ見ル糸ヲ切テ取併

糸ヲ取壹日乾キワニリんニ



ノニテノハコレナシ疔ノ様子次第
 ニ取也。口傳疔ヲ焼酒ニテ洗
 タル時タニリタル血ヲ能ク洗
 ルガ吉少血残ハ膿瘡也糸
 ズ取テ後ハ玉子ノ灸味ヲ右
 フトクタキ椰子油ホ分交合テ
 レタンテイナ少加木綿ノホツシ
 ニ塗テ付テ疔カクセ上ヲ巻テ
 如常ノ疔ヲ愈腫モハリタラズ
 一エントルンカンフラト六綿付
 可愈疔ヲ縫時真中ノツキ
 ノ針一ツタ縫ラトス一アリ是ニ
 チヤツクス(キタメナリ)兩脇ニモ
 メイチヤクス一アリ口傳膿出時
 ハ何モナリチヤツ可指一日ニ度
 此ホラ付カレシ若夏ノ疔ニテ
 腐付下セハニ度死茶ヲ付
 替テ右之如ク疔ヲ焼酒ニテ
 縫右ノ儀ニ縫其後ヲウリヨナノ
 アトヲ温疔ヲ洗玉子ニ
 味ヲ右ニトクタル口ツサ油
 ニ煉テ木綿ニホツシニ塗テ疔ニ



カフセ共上ニイシハラズテ人ニイ
ツシラ木綿ニムカフセ共上ニ又
木綿ニ泉醋ヲ入りカフセニ卷
染如常リ糸ヲ切取時白身シ
黄味カエテ右同前醋塗
テ初一度其後ニ用也疵
膿氣ヲシタスニクエ下ハシリ
ニエケフキヤラシノ加メイ子ヤ塗
疵寸其止カラサテクハフ蓋
膏茶スヘシ愈肉上タラカニ
フテニテ愈スヘシ又チヤホシホリ
コメニテモ吉 瘡ヲ不縫ニ治
テ是焼酒ニテ洗其跡シ
口ウサノ油ニテ洗其後アサノ
油ト玉子ノ白味ヲ右ニ様ニカヤ
交合小麦粉加ホワシニスリ付
疵カクセ上ニテヘンシイフヲ蓋ニ
卷上如常如此一月ニ度死茶
ヲ付粘テ良併是尔疵ノ
大破ナル疵ハ兎角縫タレ良

疵藥之方



松脂 二兩

唐土

二兩

家猪 三錢

樟腦

一錢

阿蘭陀ノ煮土 一錢

右二入煎解木綿之ホツニ分

疵ニ用トニイイニフラスヤホ

ホリコス蓋ニ良是モ少疵

不縫時々療治之仕掛也免勿

疵ニ縫タルヨシ縫様口便存

手負ヲ搦ニ子寸スル迄惡シ木

綿ニテ卷立食物ハ粥ヲ用良

病人ノ早卧タル時ハ血須補之

菜可用産後ト同前血狂者

仍是初先血治ル菜可用又

日手負夢ニ房事トト又ハ心疵

破糸切物之故ニ糸ヲ取テハ悠

々ト寝スルトナシ口傳アリ一切之疵

者焼酒ニ洗茶ヲ付先カ良上ラ

卷也如常ネヨリ付先カ痛故

腫物様ニ六ヶ敷物ヲ無見大

破テ疵見テモヤニシテ不

心ヲ沈テ療治時ハ適々新

敷アリ



丸心掛ニモ此ニ違特者千ノ
不動者一疵ヲ初見特疵大
小深クシ能知リ針數何程可
總トエヌニ針糸焼酒椰子油玉
子入ホトノ物ヲ拵置テ其後疵
ニ掛リ可療治也

突疵矢疵鉄炮疵灸

先疵ヲ焼酒ヲ温水突入疵ヲ
洗血ヲ成ホトシホリ出シカニ
血ヲ指ニテ取テ其跡水突ニ油
菜ヲ入焼酒ニテ焼酒ニ洗テ
能ニ内ヲ洗其後メイチヤヲ
拵右ノ油菜ヲ浸疵ニ指上ニハ
テヘイニイフシ蓋膏ニ在ラ
卷一如心メイチヤハ疵ヨリ半
分短拵可指メイチヤノ頭ヲ糸
ニテクワリ胴ニ結付其上ニ蓋膏菜
ヲ付木綿ニテ卷シ物テ血少ク
難シハ膿クシ深ク難治故ニ焼
酒ニテ洗時血能ニ取テ良

石炭メチヤニヌル油膏菜ノ方

コウリヨレリヨウ
コウリヨロコ
コウリヨイヘリヨ



シロリヨヲフホス 各一錢

椰子ノ油 三錢

人油 同

カンフラ 一錢

テレメシテイナ 五錢

右一ツニ入疵ノ内ヲ洗フ其後メ

イチヤラフオスナリメイナニニ

右ニ油ヲ塗テオスナリ突疵

ニテモ矢疵ニテモ鉄鉋疵ニテモ

先ナクテ深ナク知テ焼内

ニテ可洗疵愈テモ病人クク

コレタル時ハ存多ク子ヲクク

煮ニメ其汁ニ肉モ用テ吉ニ

シ膿氣オシタラハ子イナヤニハ

ナリコシノ塗内ニ入蓋ニハ

ラストカシテイマ可付何時

モ疵クサレタル時ハ腫物之瘻

治シテ良疵美良生之時不食

者 韭 蒜 唐菰子 葱

茵ノ類 醋酒 藜蘆 推 雉

諸 此ハ血ヲ破ル物也 生魚

悪淫房ノ一ハ不及記

夢ニ見テオハ不亘殊更嫌也

疵ヲ洗ニ焼内ニ手時ハ内ニ

モ不吉也 阿蘭陀ニハニ林



子油事無然其兩廣流に
 専用之河蘭院ハニ、ヨリ寸
 アトヲ用也二種尾功ア油控
 ニ用テ不苦右之ニ油無特者
 シウリヨレリヨフ無シ切草ノ
 油駒足草ノ花ノ油王子ノ油ニ
 テモ不苦焼酒ニテ洗テ後若
 ノ油尾ニテモ不苦併右五色ノ
 油ニ龍腦少クシ大身十少
 加温テ下使也痲痛強苦ハ特
 乳香 一錢 漢茶 三錢 細末ニ又
 湯ニテ可用痲ハ口ウチノ油ニ
 白蜜少加温飛ヲ可洗心痛止ニ
 又曰小瓶ハ燒酒ニテ洗シウリヨ
 アセトウニ 白砂糖 ヲ入至子
 黄味一分タキ交不綿クホウシ
 ニメリ付瓶内ニ入上ヨ巻下如常
 是モ不逢時ノ仕掛ハ花旬大キ
 痲ハ 羅タカヨ良也

腹ヲ切タレ時腸出タル時能ク
 見テ腸ハ痲モ不付白モ寸内ノ
 道具ニ痲モ不付右ノ如ク燒酒ニテ
 洗カテ一リタレ四ヲ反右後下ニ
 ト腸ハ洗有真中シ一計羅腸



ヲ可縫也。縫極右同。冬ニテハ
椰子油ノ能加減ニ血病ヲ洗
其後椰子油玉子白味等分ニテ
本綿ニ付疵蓋ス其上ヲ一燭本
綿ニテ稠ク能差セ且其疵ニテ
ロウチ油可付口傳多シ縫時少
ソムキタルモ急シテソクキタルモ急
能加減ニ物ヨリカニセ是ソノ
ハセ縫ニ着肉ノ五臓ニ疵付タル
時ニ縫ニモセキニ出ヤカニ是ス
ルニ腸ニ疵付タル時ハ必ス旬惡
ニ差異ノ自ル物ニ必ス死スル

物ニテ麻療治ノ時横ニ腹スル
惡物ニ寄掛ラセ置物ナリ腕ヲ
切タル時ハ腕半分切跡ニ腕掛
外有特ハ腕切ロソ一針縫ニ亦
外ヲ縫フニ燒酒ニテ洗血ヲ能
一取コトモ右同前大腕皆切タルト
キハ外計縫ニモ不苦本綿ニテ
巻頭少ウウキ加減ニ物ニ寄
イテ是タルカヨシ且モ横ニハ
宜候スルヤニテ物ニ玉子白味
シ黄麻ニ替付分有口傳疵ニテ



付上ラ卷時ホウレウヲハミテ
ツクカフヤ其トヨリ天竺トテ可
巻和ミニ痛ナキ也フモリノ
掛ハ紙ノ紙ヲ縫時ハ大事ノ縫
ニカスカイトテ有者ハ是口
傳若癩多痛強時ハ口ウチ
花ノ實漬ノ汁ヲ取口ウチノ
フフ少加紙ヲ造テ良ク他也
并口療治ノ多芝兩ノ脇切キ
血ヲ右ノ如取焼内ニ造ニ針
可縫魚ノ方ニ縫ニ其ノ後
古ク如シ療治ノ内ノ其ノ思
腫ツまハ其ノ要ニ糸ヲ取間
フカテ吉竹ノクヲニテ用テ
大夏口傳多シテ咸ヨリ肉ノ
子共ハ愈兼シテ西ノ草已上
者可療治子原右ニ法及
肖故ニ系切也故養生類也
此即ハ法也

落馬ノ身ノ時ハ三升ヲ一方細
末ノ酒ニ用キタルトコロニラリ
ヨロサアトノ能アリヤ上ニハ今
ストテハサシラシ木綿ニ付
上ニ巻テ置キ常ニ此ニシテ上



二和泉醋ニ木綿ニ浸シカクモ其

上ヨリ木綿ニ浸カクモ其ヨリ

木綿ニ浸シカクモ其ヨリ

如此茶ヲ煎シ若骨ヲシク特ニ其

骨ヲ午ニテ押ナラシ本ノ如シテ右ニ

加茶又油ヲ付木綿ニテニキタル上

シ柳木ニテアミタルスラカ也其ヨリ

又木綿ニテ可巻若シテ打破リ

タル後ハ必骨ヲ出スル其特

ハ麻腫物ノ仕掛吉ト傳多又胆

タル能クテ押ナラシモニ合口

ウチノ油アミタル上ヨリアミタル

ノ木ニテアミタルスラカ也上巻シ

莫如右メ一七日スキ茶ヲ右ニ換

ニ付替也右ニ吞茶ニミイラ魚

是特ニ

五錢 人油 露

加酒ニテ可用赤粉茶用莫右

口傳服茶可與亦曰ラシタル

処右ノ様ニ仕掛イシテアミタル上

シヨシ木綿ニ厚ク伸疵カ也上ノ仁

掛右同前或ハハハハハハハハハハ

又ナ竹上ノ仁掛右同是ニ仕掛



八温メ愈スハ神神ノ療也
治スルハ右切疵テモ其後先
テモ出血スル時

古メハコ ソウケ

三七二早 阿蘭陀薬也

各三錢 明礬 一錢

右粉メ和泉醋ニ浸シ日ニ乾細末
メ疵ニ付ルニ必血可止或子スル赤
子ヲ多取石灰ヲ見合入石ウチ
ツキリタキニテノ汁ヲ以トキ日ニ乾
カメ粉メ可付亦方ホウルス
ルメニヤサコスタラサレハ 各三錢

白味ヲ以煉日ニ乾細末メ可付

或ハ巴豆ノ油ヲ取光明末ヲ

立松原ニ塗付日ニ乾コソケ枯藁

少加可付血留ヲ用時分アリ甚ニ

キ時ニ付テモ血証ニ少血筋ヨワ

リタルヲ見合可付色ノ口傳

血留ヲ以山ノ付トシ其後不綿ニ

テ卷ニ更ニ用シ茶ヲ血不止時

ハ燒全ヲ以燒カクメ燒アトナシ

ニノ愈物ノ口傳南慶流ニハ赤傷

カニ知ニニ糲ナヨリ專健ニ其
阿蘭陀流ニハコレヲ使ハズ



フリヨロソク、シ角クヤシクヨリ以上
 タル故柳子ハ特ヨクハハ愈ムハ特
 有テモ又ニハハ膿ヲ折出シタリ
 夫ヨリテ阿蘭陀ハ不用シ併南臺
 流ニ此酒ニテ愈スル專ラ故甲
 テモ少モ不苦其上阿蘭陀流
 ニハ色々ノ油ヲ疵モキ身脚氣
 筋氣骨痛ノ人ナメ中凡ナト用
 ルテ多惣テテ身ノ特乳香ツ
 水ニ入煎シ時々可用常煎也ノ
 様ニ用テ良萬変金瘡之ハ特
 ニハ為折骨子カイル骨ヲ押テ
 シン押込夫々ニ仕掛テ良疵
 愈テ其跡ノハナシメ不叶時ニ蒸
 茶ヲ以蒸其跡ニテヤルテイヤ
 或ハ色々ノ油ニテ温メ熱証ノ膏
 茶ヲ付木綿ニテ巻延名ハ奇子
 ナミタレハ延夫々ニ可療也
 蒸茶ノ方 イフ草

菖蒲根 エヒキ

鹿煖草 野菊各三兩

大黃 當歸

肉桂 各二兩 各ウホシハラ二兩

燒酒 同

右ノ各ニ燒酒ヲ入煎シ湯氣



ヲ以蒸物ノ其跡ニ膏作油
夫ニ可引療治此縫時名糊
付テ結テリシ安ク難縫故ニ
テ吉疵ヲ縫時手ニ引テ針
ハ半糸ナリナリカクキ其情
ハ唐ノ玉ヲ粉ニメキニテ付
唐土モ疵ニ用テ糸ナ故手ニ
付テ用更秘密ニ返シ見疵
ヲトク更不可有氣ラシメ夫
ヲ以可任御ノ疵ヲ縫不綿テ
卷ニ後ハ寸方ノ玉ナルト心強
可療治一切腫物全愈其如
様成大ナル物リ又テセサセト口
ク心不可有工夫ラシテ療治シテ
良其心無異物ハ松油使様
膏羊ノ毛様跡ナキニ成テ敷
物ノ連々上夫ヲ以可療唯意
テ心ヲ止ヨトハ是ナルト右阿蘭
陀南蠻全愈ノ極意也可秘
ニ金亦宿終

阿蘭陀膏藥方

ムシクアラトテヘンスイフシ

コウリキヨコトナラシ

シウリヨコトナラシ



ソクチノイウニテキスルテク 同

ラニウキスヲラカニスニス 一撮

ホウリノイニセス 同

ホウリタルテウレン 同

ラアテモスニウルトニヨウリ 六

アキソクウヤロウ 六十二銭

アキソクウヤロウ 同

テシメンテイナ 同

ニステキス 一銭二分

メラヘ 四銭分

ヨリハヌシ 同

セイヤマレイフ 二十四銭

金ヲ炒カス 二十三銭

銀ノ炒カス 同

ホウルスアルニヤ 一六銭

タイフシケラタ 同

丹 五銭

マシキタウヨニス 同

ヒンスカイニヨ 二百目

右煉合使性冷押散悪血ヲ
寄ス諸腫物痛ヲ止熱ヲ去ス

念シキカク

同銘

オシトロニウケルナリ 一銭



ロオアロニルノフルリ 二銭

カマラ 二銭

セイラ 一升半

ヨウリヨスレロルン 六銭

エンハラストチヤルニ

金ノ貯カス 二斤半

ホルトカルノ油 同

アキソウヤホウチウ子 二貫百

アミラツウストン 四十銭

ヒナリヨウん 同

右ニ色ノ油ツ煎 諸テロカス又

煉合オシシテ成ニ色ツ入性冷

口タ一切難治古瘡古疔良能

愈ス

エシフラスドテ 二

ミイニヨ 一斤

ホルト丸ノ油 二斤

セウラ 半斤

テレシニテイナ 四十銭

アリストロキ 二十銭

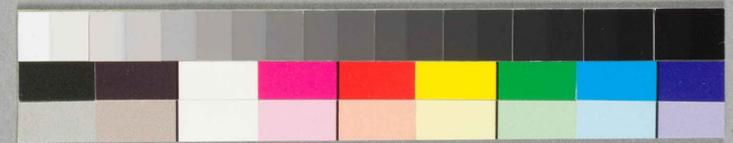
古煉ヤウ同前是 萬瘡 南蠻種金

瘡愈

シアラノカ石 一升半

カウラ 四十銭

ニリヤニ 同



セウヘーブルシ

同

テニミテラ

二十錢

没薬

三錢

二人テキス

同

ロクセ

同

右七味煉糖如常色ハ望ム也

ウコン 朱青丹 何ニテモ此膏茶

一切人愈膏茶 金瘡 良右五分

ニ水気無アケク立止返煉布

ニテコシ使

エシララス

子ロハ

四十錢

麻仁

同

右ニ色採シテト目下入浸

六七日ツキテ布ニテコシ糖ソ去

金之炉カス

十錢

ハキル松脂

ハルス

三十錢

サウテレイラ

二十錢

ヲウリクカモナリ

加減

右煉糖松脂カモナリ黄蠟

入シ煎シロカス入後ニ味汁入

煉合ハ性温也癖症行症

一切之病物にエトキ膠セニ



エシラフストテヤ十ロシコムクス

松脂 一斤

テシラシテイト 十錢

油ヲ少入煎内ニ火ヲ又コシテ

丁子 粉ニシテ 五錢

肉桂 粉ニシテ 十錢

丁香及粉ニシテ 同

附子 粉ニシテ 同

らんじ 一斤

野薔薇 十錢

金ヲ炒ラズ 煎ニ後ニ十日 二十錢

蠟 加減

油 同

右油ニ合ホトニ肉桂丁香は野薔

ニ味入火ヲ少ニシテ煎シ出シ木綿

ニテマシカツ去右ニシテ先松脂ヲ

入煎シ松脂トケ先將テウツ入加

減ス能トキナラオロシ附子丁子

戸糟ニ味ヲ入能書交テテシメシテ

イテウシニ味ヲ入カキマセヒ一々時

用能石同ニ神効 同銘

松脂 一斤



豚内油

四十錢

二重葉(解) 一テコ

ホトタノ油

四合

赤根 スリノ

十本

葱白 同

五合

白二ノ根 同

十五

葵根 刺

五本

野菊の花

木錢

セウラヒレクダ

一斤半

チヤン

三十錢

テシメンライナ

二十錢

麻仁 蒸マ

同

肉桂 同

十錢

乳香 同

三錢

没薬 同

同

右煉合使能右同

エシララストテキロシカウミ

ムカキヌシノ油

二百四十目

八玉ノ炉糟

百二十目

アセニヤリン 代安息香

十錢

コハクシクン

同

カルハユン

同



ツカヘニ 同

テハシテ千 二錢

右煉令使性腫物堅リ小膿
時付レハ一夜ノ内膿成也

エシフラストムスラキニウス

シウリムスラキニウス 四六錢

フナアモニマコシ 四錢

コメカルのスシ 同

コメヲホハチアチス 同

コメナルヘイ子 同

コロウク 二錢

テレシテライナ 十六錢

右煉令使性温腫物引膿
スル下地ハシリコン塗付其
是ラチ

同銘

胡盧巴 四十八錢

葵根 同

麻仁 同

右各粉ヲ煎湯ニ入事其方
如左花時布チヨシ
アモニマコシ 十六錢



アリの白ロ

同

ツルナカリ

同

テシタニクニ

三十銭

ハシキ

二十四銭

右五色ヲ強酢ニ煮解布ニ

ツルナカリ

ツルナカリ

二十四銭

ツルナカリ

同

セイイラ

六十銭

豚油

二十四銭

右四色ヲ入煉合其後

ホウシヤ
ホウシヤ

三十二銭

ホウシヤ

二銭

右粉ヲ入煉合使性温手豆病

結々ニ長筋脚氣ニ吉腫物

能和心高ヨリ落クニモ

乳香

十銭

没薬

同

阿膠

同

麻仁

四十二銭

コロハ

同



葱白

一斤廻末對

葵根

十本

四色水ニ練ホト入ニ時ホ能
煮テ置三日メニ又布ニテアニ
ツレガリ

ウラン

十錢

テシタテイト

二十錢

蠟

少加減次第

蘓合油

一斤

右ニ色ノ汁ヲ後ノ四色汁入

チフリン

五錢

煉コシテ置ヌウラン残念入子リ
十ハツラロシ少クシテ下ノ水ニ油
五合ホト入能煉ヌシツクヨク
ホハ時ホウラロシテ置ヌ
一包メテシカシウラ入テカク
ルナリ能同前

エシフラストラシヨシヨシ

セイウ

六十錢

松脂

同

アモニヤク

二十錢

ニヌテキム

同

千ヤン

同



檉樹金

同

カハハスニ

同

メラヘ

同

テシミンテイナ

同

右煉合使性ハ熱ニ弱シ和氣量シ
紐手互クシキニ良脚多ニモ良

エンフラストテヤホシホリコ

セイウラ

五十錢

唐土

十錢

トシイカ

同

ホシシヘイウリスラ

百兩

コリハフシ

十錢

メラヘ

同

タフノミラ油一

ヲリヨウシソウニ

十七錢

ふルトカハノ油

三十錢

右煉合使性ハ寒ニ諸腫物愈

膏薬也

エンフラストネリロウト

フヨウノ葉

六十錢

麦口冬

五十錢

半之油

四十錢

セイトラ

六十



竹ノ油

二十五銭

野菊ノ油

同

獨活

同

肉桂

同

コロハ

三銭

ヒクク久

三銭

丁子

一銭五分

モミノ木ノ油

二銭

梅ノ花ノ油

二十五分

梨子ノ花ノ油

五銭

千マン

十五銭

檜ノ油

三銭

松脂

十銭

ツリヨウウリノ一

二十銭

アシカシ木ノ油

二十銭

ハクノ根

三銭

松葉

三銭五分

研仁

同

右煉合使性

熱



西ノ温脚々其筋氣或ホチク
シク石治シテ冷堅リムル所ニ長

同銘

総砂 コシメ 八錢

トアカラ コシメ 三錢

カ子イラ コシメ 十錢

オト占ムルホシ 五錢

カアチク 十錢

ロクハイ 二十錢

カモイリ コシメ 十錢

川草 コシメ 十錢

テシメシテイナ 二十錢

ホルトカノ油 加減

右煉合使同前

テシメテイナ 四十三錢

白蜜 八十六方

ホルトカノ油 同

玉子黄 二十方

焼酒 八十六方

キリン血 四方

メシメ 同

アヒンヤリ 同



右煉糖 一匙 水少々
碗に入スハ白ク成其時 玉子ノ
入エリ廻シホルトカル油入其後
空瓶ノ交合具後焼内ツテ
交合テ少火ニテ温置之此膏
茶葉一匙 瓶ノ内本綿ノ出ワリ
付テ之瓶ニ一盃入其トニカラサテ
ヤシヲ良

ヤシ

八十錢

ヤシ

同

ニシキエトハリシリヨ

同

松脂

二百四錢

ホルトカノ油

二斤

右一度ハ煉合使此膏茶葉
一腫物ヲ膿吸破リ膿ヲ吸一
肉ヲ上ル一方蠟ヲ除テセイヘ
子ツ入テ猶ツ能板入又方ニ鹿油
入痛ヲ止ル早付シハ散モスル

インハエントロフトリウシ

アミアウストン

五錢

ヒコリヨウリン

同

ソリニシ

五分

ヘリニテ

五



巴豆油

加減

右細末、巴豆油ニテ煎煉
是レ一切ノ腫物針ヲ忌物豆
粒下付置ハ同モノ

イシクエントエケフチヤアコシ

（元テ）

五十錢

アミアワリトシ

十錢

白蜜

百四十錢

アスイン

七十錢

右一度人赤色出ニテ煉ナリ

悪肉出来らうカスレテ心持要
時其瘡上ツ少破リ此膏茶
コシ入レ則良腐止愈何
レノ膏茶ニモ少カ加茶大付
（レ）腐レ深ク物胸ツ止ハ燒内
ツラク此膏茶ヲ又湯ホトシテ
洗レ身茶ニモ加テ好レ胸光モ
也

イシクエントウリウシ

セムラニレイラ

六十錢

ホトカシノ油

一斤

テシメンテイナ

二十錢

フシホウニマ

三十錢



アステキス

一錢

ムフ

同

鬱金

一錢

石煉合使性温之湿ヲ抑腫ヲ
耗スキテ腫レ名ニ良クシキ先所
ニ良

良

インクエトアホストロルン

コルホウニマ

十四錢

テレタニテイト

同

アモニマコシ

同

セウラフ

同

金ノ炉糟

九錢

アリストロケ

六錢

メウ

同

ラリハヌン

同

カルハヌン

四錢

丹盤

五錢

ヘルテ

二錢

ホルトカ

半斤

脂

半斤後三五分

右煉糖、蠟、油、醋、脂、類、草、又
煎、解、淡、立、止、時、布、三、テ
コ、シ、ウ、サ、シ、テ、粉、草、ウ、入、其、後、



少老入煉之是膿血之味
同切腫物色要數直ス

シクエントアルカンフラト

ヨウリヨロサロ 百拾錢

唐土 四拾錢

白蠟 三十錢

カンフラ 二錢

右煉合使性寒之痛ヲ止熱ヲ
寸ニ腫ヲ耗ス草毒瘡瘰癧

ニ良

インリキニルニイマ

鴈ノ油 二十錢

大ノ油 同

コトル油 同

楓ノ油 同

茴香 同

野菊油 十錢

ワリヨロサロ子 同

ワリヨロサロ 同

亀油 九錢

石油 同

テラシナイナ 同



セウラ

半斤

アラキ

丁五錢

右煉合使性ハ大熱之是内ツ
ト只瘦タレ所ニ良物伸力
ニ不成血モ不須既塗付テ
其上ニキレコロシヨシオリロウトム
スラキニフス等ヲ打ナリ
イキクエントクレハイシ

椰子油

一合

小ルトルノ油

同

蛇

真甲手末四テ

三筋

右ニ色鍋ハイキノ出ヌカシ蓋
ヲシテ炭火ヲイカニモ静シテ
日煎布ニテコレ糟ンナリ四季ノ
加減シテ蠟ヲ入煉之是ツ痛骨
ノ上痛筋ノ上ナテ腫タル所何テ
モ痛所ノ上炭火ニテ焙リ此膏葉
ヲ好()其止ツ木綿ニテ巻凡ヒ
カヌマウニシテ温シノ良骨ハ不切
ニ此計印テ伸ヌ所ニ此膏葉
付テ引伸シ冷タル所ヲ溢也
此膏葉ハ大温之ニ病或ハ
府因タル穴痔ノ腫ニ色



ニハ切々焼金ヲ盡テ其ニ付
テ良

ハハハスノ方

六麦粉

小蔡花

小麦粉

野菊花

メリロウト

コロハ

右赤色粉ニ水少入カタクリシ

如煉合使木綿ニ厚ク塗テ

疼痛スル処ニ付卷テ置ナリ

忽ニ痛止ルナリメリロウトナキ

時ハコロハヲ一倍入ルナリ

ヒシト

ニキレアルヒ

五錢

フルコテイル

十錢

太辰草モミシ

十五錢

ヘイキ

同

ソウケ

五錢

松脂

十五錢

カビイ

五錢

コウソウ

二十錢

丹慈谷

五錢



明花

八分

心ト丸ノ油

加減

石一包合煉布_三テ_三使_十リ

能_ハ吸_ク神_効

テヒキヨシ

ナ_ラカラ

五錢

肉桂

同

ムス_ラタ

同

ア_リノ_ミ

錢

大油

同

雞之油

錢

酒

同

蒜

同

葱

十五錢

一_ステ_キス

三錢

ア_キツク_ウヤ_ホツ_キ子

同

セ_イテ

同

右煉合使能_ハ膿_ス筋_ノ氣

脚_ノ氣_ニ長

コ_クロ_セル_ハン



ルルハアノホ

二錢

ツシフヲ

三錢

蛤 霜

二錢

川ヒナ 同

同

セウラ

八錢

アヒシク

三錢

寒水石

十錢

ノキヨカアト

二錢

ホウニスアルメニマ

三錢

カマノミ

二錢

ホルトカノ油

二十錢

醋

五錢

右煉合使能腫物平散

効アリ



阿蘭陀油能毒

一 シウリヨソクシイ子

琥珀之油

性熱能小便通病輕重隨一露二露
三露程見合書交用和酒亦シヤ酒
ニテモ用淋病石淋婦人月水通兼古
油ノ取樣琥珀ヲ細末メヒイトロコシキニ
入砂埋砂ノ下ニ炭火ヲラコシ燒酒煎如
取ナリヒイトロコシキ砂ノ置樣炭火ノ
加減猶口傳在

一 シウリヨノスバカアト

肉菴之油

性熱腸中泄瀉スルニ炭菴ノ花蜜漬ニ五
五路程書交用下止六次ノ花蜜漬無ク
時カセクメ書交用一切イキ短古ノ上置
其後亂引入燒酒煎如梅其亂引之出
口ニ木綿シ一ニ寸程ヒナリ入其綿ヨリ
油滴出ルナリヒイトロノ徳利受テトル
一シ水ト油一ツニ落テ油ハ水上ニ浮也其ハ
浮先油ヲ寄テ取一シ口傳アリ此煎汁水
ニ腹中ニ下ルニ少用吉油ヨリモ輕和ナリ

一 シウリヨアニス

小茴香油

性温腹ゴリ鳴テ痛結ス時三露程酒
ニ書交用シマクニモ固州瘡ニモ吉油躁
肉菴之油同前但亂引ノ口木綿ヲサス
此油ハ水ノ下ニ沉タル水ツツロクニ受テ油
一取ナリ此水モチヨク一ツ程少温用テ吉
口傳

小茴香ノ類

性温切筋服用 右茴香同前

亦此油ニ露程小茴香油ニ露程加用吉

一 シウリヨニクシラヘントロコシキ油

性大熱一切筋服用 右輕皮淨ク



油同前若カレヒイノ油ニテアキ時此油
シワリヨメニ アカラ

性大熱筋氣脚氣中風何レモ此油
土油 野菊 野菊 野菊 野菊 野菊
次合付ルナリ骨筋痛ハ石之次合ニ付
シ若肉處痛有之瓶申下石之油ニ合
付ナリ油取様 肉菘取様 肉菘

一シワリヨメニイラ 土ノ油

性温此油一味事 石下子油同前此油ハ
アチント云國ノ山川水丘浮流出ル也

シワリヨメニニ 薄荷油

性微温ハ子ツカヘ不食丸ニ葡萄酒ニテ
ニ程交用和酒ニテ吉油取様薄荷香
葉ヲ多一取乾テニメ油ヲサシホリ取ナリ
シワリヨメニカステヤンシヤロト

煎川之油

性微温胃中風當時此油ニ露カレヒイノ
油ホ分ニ加用カルヒイノ油無之時一味計用
テモ吉吞酸ニモ吉油取様蜜和之はホシタ
ルヲ水ニヒタシ瘡カシ其後フシキニテ焼酒コトシ
煎出口シ木線ヲ少ヒ子リ入ワタヨリ滴テ出也
此油ハノヒニ海ニ有シ膏也テ取也

一シワリヨメニイリ 野菊花油

性熱筋氣腎痛ヲ去リ和シ此油取様一味シ
道ヲトナシ代油ヲ合可使若代油無ニ時ハ
一味ツツカワテモ吉筋氣腎痛取様ナリ付ル
此油取様野菊ノ花ヲ多ニ取陰干ニテホ
クニ油ニ浸ヒクトノ徳利ニ入ロシテ塞キ
而日ホトドニテ其後シホリテ油ヲ去同
シワリヨメニイリヨウルシ 心ヲエリツ花油



温病氣ノ痛ニ入りテ吉クモリ少加
蓋吉胎ノ之時後心持惡ク臍ニリ付テ吉
産後ニモ吉腹痛ニ吉惣ニテ女ニ用解
油也生子ノ臍ニ付テ吉油取テ胎氣
ヲワリヨセウラ

蠟ノ油

性冷瓜々ケタル時ロクシヤウ五ノ程細末メ
蠟ハ方油ナシニツ程入テ合テ瓜々ケ
タニ躰中テ上ラ本綿ニテ包シ瓜々出
強ク堅ク成也油取様蠟ヲ煎立ラカニ細
才綿ニテフコシホリ水ツ成テ入蠟ヲ油浮
タレノ膏ヲセテ取テリ

カマノ實油

性熱也

乙切ノ油

同性 右ニ色之油ホクハ各種物ヲ全
油乙切同前

強之油

コウリヨロシヲカウルシ
性温キ足冷スリミタルニ付足ノスリミ
ニハテシメテキイテ油ホク加付テ又ハ肩
ノ痛ニハ此油ヌリ付ケルナリ油擦ミコウ
多集メ蒲萄酒ニ入エシハヤセ其酒ヲ
捨テ其後ホルタルノ油ニ浸シ壺ノ口能
塞ニ數十日程日ニテコシテツカウテ
酒ニテ時々和酒ヤ苦酒ニ生腦ヲエセウ
少入ラハオウヨクハキ出ステ温メテ
一ツウリヨスワアツカ

硫黄ノ油

性大熱能イホク愈スイホク切其切口ニ不
綿ツテ蓋セテ其上此油ヲ少許打テ之ヲ
ノ根ニ付テ愈ヘシ油ツヨキ故本綿ヲ油



イホノハカリニ付テワキ少クシテクハ
ニクイホノ根ヲクハ切テ油
ヲ付テ能愈ル咽痛ハ蜂蜜九日
右並カスリ去右之油ハ雪程不書文
口ニ吞ノントノ痛取テテコウトナラハ
キ捨テシカモ吞コムカラス此油取様ハ
肉治癒ト同前此油取タル水モ吉し油取
水用テ良

シウリヨヒテリヨウルニ

クニシノ油

性大熱虫喰菌ニ穴明タルカヨシ
ワキニ付テ菌ノ穴ハカリニテスシワキ少毛
不出様ニシテワキ出スシワキ付ハ痛也

古キ腫物ニテ瘻穴アリ先ニイシ
ノトエシフシマアロニ此油ヲ付テ其穴入

ハリ痛此油ニコセテ粉硫黄粉少合テ付
一ニ赤キ足筋骨痛ニモ去取分痛苦
油取様硫黄ト同前

シウリヨ(ワトアメントワスニキアメント油

性温耳鳴不同指シ耳チアト出葉先

テセハウニ出テ合也何モアタニテ綿糸

テ可指油取様コニ油付前シテ取

シウリヨアメン 常ノアメント油

性温火乳ヲ吞カヌニ乳ノ口ニサスリテ

吞スシ亦凡別時乳ノ口ニテ用乳母不

合乳味タリタル時ニテテ介介用吉

油取様 ニカアメント同前

シウリヨウリイ子 黒ワシ木葉ノ油

性温赤血肉存タル油ニテ一分一ト



付テサ 喉肉上テ愈ナリ肉より過クニモ
付テ言一切之鳥獸毒虫魚鱗先痛
仁テ吉亦食氣胸ニ使消兼吐逆スルニ
此油ハ胸道前より付テ吉 傷痛兼逆ノ
痛ニ吉少温瓦良フノ木ノ實モツキ
ソクキ油ニ入リテカシキ油ハ極茶ノ葉
ソ四カ月比多取集ハクニセトウケツ
少色ノ年ニテモシヤシ本綿ニテシキ
コレテ取(一)茶ノ葉者阿蘭陀國ニ軍
陳勝利シ得テ昂陳ノ時冠ツ取頭ケ
タキ帰ナリ茶ノ葉シ不即料理ニ用テ
之良シ進脾胃ヲ補也

鉛ノ油

性寒 瘡氣大熱ナトニ咽乾キ水ヲ引ニ
此油ハ五倍湯ニテモ水ニ用入成
出東 廣安 廣カリ 年々 單行ナ
類ニ此油ニ白粉ヲ入テ身テ吉油取
様ナリニ塩イワラニシテラ加焼粉ニテ
コシキニ入テ伸テ取ナリ取後スハト肉
前 是乃ヨヒアフヲト也

肉桂之油

一 シヤリヨシナモウニ
性大熱 心氣不足者 此油ニ露用テ
吉能 心氣ヲオクメ心血ヲ養イ人怒
大哭モ過ク先時心氣散ハ氣不引
懷妊四五月之間怒モ喜モ過ク先時
者 鉢トト見ル者 此油三四露ホトフタ
酒ニテモ和酒ニテモ用テ吉母ノ氣ヲ強
クシ子ヲ養フ大能保也 此油ハ極肉蒙ト
同ナリナリ
一 シヤリヨシナモウニ 其松實ノ油
性微寒 蒸淋小便結先ニ吉 油四五露



程酒ニモ湯ニテモ用産後胞衣不
下ニモ腹セキ痛ニモ四五密程酒ニ
用吉油取様蜜柑之皮同也

一ツウリヨヲホス 雞卵之油

性温寸白キニ指合ハリタニ時其不
タニ取此油ヲ取付ハシ括入ナルモ
腹中ニツウリヨ可愈頭ハス出来跡
愈テハケテ毛ハハナニ此油ヲ付テ
ヨクハエナリ身内堅ニリ有ニ付テ能
敷ナリ氣腫癰瘰類ニテモ堅タニ
付テヨシ其上ニムスラキニフスカメリロウト
テ付テシタルライマノ生ニ似リタニ
時ハテタルテイマセテニ吉也 油取様但
煮テカテト白身トテ去其丸取ノ汁
取リテ鍋ニテイリ木綿ニテ包也

一ツウリヨフレイル 山タウシニ葉油

性冷胃中トコソリ有テ顔色悪ク口内
ニカミ出ル時此油大テサシニ程用ツウリヨ
ニテツウリヨ加テ吉ニテ血ニ暗ヤウ
リヨアフセシテラ加テ吉吐逆ノ後アウ
リヨロウリイ子ヲ加テ用此油取様也
ツウリイ子ト同前

一ツウリヨアフセシテ 是ハ果ニ無者

性温金瘡腫物トクアリムニホトナ時ニ
此油ラセシ洗虫ワキテモセヨシ此油取様
利藥也油様葉ニテモ實ニテモ生ニテモ
ツウリヨ一取此葉ハクヤノ國ニ多ク有
五十歳以前合致有先時多死人年負



此草ハニ訓タリシ九十五日死骸一置
疾不廢手負者疾愈瘴氣色
ニクシク療治ヲ加平愈ス其時曰此草
ノ功解ヲ極テ知ク此草切テ去虫也
ノ腹中右テ腹痛スハ九二三露密ニ
用シハ腹中虫ノ所也腹中ニ在リ
一ツワリヨセシヤク
生姜之油

性熱身殊ニホカ冷先時ニニ露ホト酒ニ
入用冷テクツシヤメ可出也メ不出時此栗
綿ニ付鼻之内ニテシテキ其香ヲカキテ吉
何ニテモ冷タニヨシハフキニモタニモカ用エ
此油取ルハ生姜キ斤アセトウ十六合入
一七日置テ其後シホリ取り生姜細刻
一ツワリヨイリマス
白蓮花之油

用ル咽腫カシヒノ類ニニ露ホト吉鼻之
内ニ瘡出タ先時木綿ニテリ付鼻ニ挿入テ
吉鼻タケニ布ニクシハニ曲ツテ付其後
此油ヲ右之油ヲ如指込置也耳内
腫カ出タ先ニハニカキアメシト油ニ具
此油一具交サ温テ耳内ニタラセ也
親キハマセトウナヒタニニ七日ホト
日ニテシホリ取也右ニ七日モ置シホ
一ツワリヨロサアト
菘菰之花之油

性冷也折身ニ是此油ヲ付テ其上ニニハ
ラストテハニスイテ付ハニ并破タニニ露
出タニニモ可用此油取様 菘ノ花ヲ四目
アセトウナ油百二十目入浸ス野菊ノ
油ト同前

ツワリヨスヒツセイ
脂之油



性熱功能服用ハテシメシテイナク油二巨
前但シ瓶内不入知ニ瓶内ニテイナク付

此油取様テシメシテイト目録
エシマロウステリシウ リシス

性冷脾胃咽ニテ痛タル時柳枝ノ子

ノ如木之先ヲフテ拵此醋ヲ付テ乾

咽ノ奥ニ寸シ入付凡口中之痛ハ何テ

モ吉此油取様先リシノ實シシホリ酢ヲ

取上ク之白砂糖ニ入書文鍋ニテ煉テ

蜜ノ加減ニテホト煉之口傳有リシスナ

キ時々スカウシニテセヨシ其外相類

何ニテモ吉シ

シウリヨシウテ

金之油

性微温天地之要ト云當テ紅死或口

腫之様成身内患瘡有テ此油ヲ

シテテホト吉シ上ニ置テテテ後ニク

シテテホト吉シ上ニ置テテテ後ニク

用ユ(一)願瘡ニモ右同前昔フクノ國

之帝王アケイスノ國ノ帝王此二人前

癩瘡人來テ藥ヲ申請ニ二人ノ帝王テ

ツカフ此油ヲ彼執手之ニ付テ其後瘡

シケルトナリ

シウリヨハニトロ

石之油

性大熱此油功能ヲフリヨスヒツセイ同前

但シ此油ハカキテテ吉此油取様葡萄

酒ノ石ノ油取様同此石ハシラニ夕國ニモ

茶色成石ハ善也

ヨヒキカ
カキテテ吉

シウリヨヒヤウラス

性微寒肉ニ赤味有テ痛時付テ吉シ

痰油茶ニモ今テ吉ナ痺ナリ時ニモ吉シ



「其身」云々付テ吉其時を別油ニ付テ
吉何モ吟テ吉処ニ分ルニ亦熱キ茶付
ル時モ少加テ吉之油取様 口ウ香前
口ウウテ油取時ニ口ウウ無之 昨モ白灰
ノ花ヲ取テ油ニヒクシテモ吉又蒸シヤヒン
トテホヤ色トテ八重ニ咲キ有花是モ
右同前 口傳在

野菊之油無之時を去ルニ其菊ニテモ不
善性を野菊ヨリモ強ク其菊をハリス
其方丈色尤良ニコト無之時ニ白菊少若
花水之取様

花水之取様
花水ヲ取テハツツイノ上ニホウロクヲ置其中
砂ヲ一寸程ニキ其砂之ハ銅カ唐金之
鍋ニ置キ其鍋ノ内ニ砂ヲ傳リシキ其
砂ノ上ニ草ヲ置キ亦其鍋ノ内ニ置キ
コシキヲ置キ其上ニ常ニ湯ヲ煮シ其
湯戴水又件々ハツツイニ火ヲ燒キ此鍋
ノ水アツクナルヲヒタモ水ヲ酌シテ吉又
コレキノ内ニ蓋ヲ置キ蓋ノ下ニ穴ヲケ竹
ノ管ヲシテ此桶ノ外管ヲ出シ花出マシ
ニスルニ



△ 夫醫官用藥如將師之用兵。諺云：軍易得一將難求。決勝者良將也。決功者良醫也。知兵之勝敗出於良將之權，知人生死出於良醫之診視也。雖有三軍無良將則兵不能自勝，雖有千方無良醫則藥不能自効。蓋良將必竭其智，良醫必得其法。而用之良將之威以能用，寄兵而勝敵，良醫之功以能用奇藥而愈疾。用兵用藥當先求其良將良醫而用之，苟非其人則兵藥無成。切矣。

△ 凡癰腫之證其名雖有二十餘種，以陰陽之二証而為先。故陰證陽發熱冷實虛之病，而己陽發則皮薄色赤腫高，而陰發則皮厚色淡腫硬。狀如牛頭之皮而不痛，然其脈又陽中之脈也。中之陽可分別之以熱而非熱，雖腫而實虛也。

若赤而不燥，欲痛而膿流，浮而後消，外盛而肉腐，陰中之陽也。似冷非冷，不腫而實赤微而燥，有膿而痛，外雖不盛而內實而亦煩，則陽中之陰也。其人多內緩而內實，而亦有陽發而為陰者。六曰：單醫涼劑之過也。陰變而陽為者，大方熱藥之驟也。陽變而陰者，可返於陽於多生陰，亦及陽者，其証少不復能為陽，致多死矣。若有生者亦百發一中耳。字者勉之。

△ 聖惠方經云：夫癰疽何以別之？善熱五臟不調則致癰，久患消渴之證又善發癰疽之疾。飲食不節喜怒不常，陰氣不足，陽氣有余，榮衛不和，則血溢不行，血流不歸。



氣不通而結搏乃發為癰疽
故生大熱甚則肉腐為膿

文癰疽腫大按乃痛者膿深也按硬少
痛者膿淺所按之處不復者膿淺也
水也按之即復者有膿也發腫都軟者
血腐也非癰也發腫日漸增長而不大
熱時口辛痛者氣瘤也

仙傳云脈數發熱而疼者榮於陽也脈
不數不發熱而疼者榮於陰也不疼
由是惡証且癰疽初生黍粟粒大或痒
或痛其狀至微其禍非小便溲作急瘰
治初見之時宜速灼艾痛則灸至痒之
則灸至痛自然毒氣隨火而散若不傷
灸其毒熾痛滋蔓結成癰疽
聖惠曰癰疽發背疔瘡乳癰疔之

癰之在五善七惡之証不可不察煩燥

時嗽腰痛渴甚或泄痢無度或小便如淋一惡也

膿血大泄腫尤甚膿乾故臭痛不可近
二惡也喘急氣短恍惚嗜臥三惡也

日視不正黑暗緊小昏瞢腫背上黃翳四

惡也肩項不便四肢沉重五惡不能下
食服藥則吐食不知味六惡也

聲嘶色脫唇鼻青赤面目四肢浮腫七

惡也動息自寧飲食知味一善也
便利調勻二善也膿潰腫消色鮮三善也

三善也神彩精明語清朗四善也
休氣和平五善也若五善見三則瘡七

惡見四則惡之劇矣其脈則洪大者難

治微細者治易

脈法



脉經曰脉殺身無熱內有瘰也
腹盈積聚身無熱脉殺此瘰腹中有膿
諸浮數脉應當發熱而不反西所惡寒
苦有痛處當發瘰膿脉微而遲及發
熱弱而數及振寒當發瘰腫

△脉浮而數身體無熱形哩之府中微燥
不知痛之所在此人當發瘰腫

△脉滑而數之則為熱滑則為實滑則主米
數則主衛榮衛相逆則結為瘰瘰之脈逆則
為膿

△脉遲緊則者膿未成洪數者膿已成

△脉沉而實腫硬而皮肉不實毒氣在內

臟腑秘法當急刺之

△脉洪大瘰疽之病進也潰後洪見難治
微見生自瘰

△絲脉腫遲潰後見之易愈信者又思也

△結脉八凶 代脉八死

△素門曰諸痛痒瘡瘍皆心火諸癰
疽瘍疹瘤氣結核皆屬於熱瘰者淺
而大也疽者深而惡也凡熱成血矣蟬鐵

△癰疽之初發必灸吉又膿出時生青木葉
當又上古木綿熱湯洗其上置灸以蟬針小
腫良大腫益無

通治

疔毒奪命湯

仙傳云能內消腫速効

羌活獨活青皮防風 黃連

赤芍細辛耳節蟬蛻姜豨脚蓮

各五分 加 河車 沢蘭 金銀花

右每服五錢先將一服加沢蘭

金銀花

生薑一瓦



好酒熱服。飲者水煎加少酒服。
妙也。然後用酒水各一盞。生薑十斤
煎熱服。以衣被蓋覆。汗出。病愈。
減後。再以前藥加大黃。二錢。煎服。或利
一兩次。以去餘毒。為妙。此方以藥味觀之。甚
苦。不可然。累用。累効。萬無一失。

如別有他證。出後。宜隨証加減。治之。

嘔送惡心 加 乳香 豆粉 耳中湯下

心煩嘔吐 加 耳中節 一分 豆粉 酸漿水下
上別多末

又用 紫河車 卷姜 米醋

一口磨下

心煩嘔名伏暑用 硃砂五苓散

嘔逆加 母丁香 石邊

同前藥煎服不止 不換金正氣散
人多 木香

三煎服

嘔不止手足冷 黃連香薷散

心煩加 香門冬 赤芍 梔子

灯草

潮熱加 柴胡 茯苓 淡干菓

絲茅根

腹脹加 蒼朮 仁 寒水石

自利加 白朮 茯苓

腹痛不止 肉豆蔻 當栗壳

嘔嗽加 知母 貝母 沙蜜 少許

頭痛加 川芎 白芷 葱白

痛不止 蘿蔔子 川芎 葱白

梅碎 陽完

痰証多 生艾尾菓 米醋 糟飯汁

時疫



桔梗 川芎 防風 耳聾

此種心火除別研外一匙為末入桂入白煎

二三匙溫酒調服日夜五六度服之痛口

更服元佳之所以補前損除後患之不合

酒人未香調下

丁香 加 連翹 芍藥 木香 乳香

反芩 各 千金托裏散

△生肌栝柳散

治一切諸般瘡癰疔瘡癩膿潰之後外觸風

寒腫爛結硬膿水盡稀出而不絕肉膜

空虛惡汁臭敗瘡追乾急好肉不生

及瘡疔癩惡瘡連帶不瘡下注腫瘡

侵漬不斂

栝柳 黃連 木香 各等分

△托裏消毒散

治瘡癰腫痛但殺色不甚赤元氣虛弱或

行攻收不能潰散者六味去瀉入去瘡

生新之良劑也虛弱及已潰者

翹 芷 金銀花 三味之清毒之藥

菝 參 芥 陳 芍 木 苓 各

全銀花各七分 甘草 水煎服

△內托論

病人氣弱內虛瘡之毒入

先氣補胃盛血須流經項瘡毒入內

出是內托也

△內托後煎散

骨 凡 莖 芍 苓 甘草

參 多 飯 已 各 桂 藥

△瘡痛此散用驗不有但苦寒藥

用子 栝 連 通 知 極 也



寒柴非驗者正溫其亦可
芥。茂。多類也。

△肺癆肺經尺熱者或受思勞驚心火煎
肺金冠或者久嗽咳胸中痛呼々咳喘
膿血出脈數虛盛肺痿數實成肺癆
肺癆也恒早治既久膿血臭不可治

△年未湯 肺癆乳間痛膿血吐治不

地俞。芩。赤芍。牡。甘。各半。
煎服

△艾茂湯 咳嗽胸中痛肺癆治合歡

一味煎服

△乳癆乳癰二証不宜用針 妳岩始有核腫
結如蟹菓子大不痛不赤注七年方成
瘡如成瘡之後如岩穴之凹或如人白有
唇赤汁膿水浸淫胸膈氣攻痰痛難

△十六味流氣飲 治妳岩

芍 奴 木 桂 朴
苳 苳 鐵 桔 芳 風 烏 菜 栝
右細末作一服或加青皮一錢水一大盞
至一盞服

△丹溪曰癰癤溫熱之病也風邪非治入凡難
治先腹痛小腹引卒小便澀或惡寒或
甚則後脹或胸膿血出脈洪數成膿
有可下脈遲緊成未膿成不可下

△牡丹湯 大黃 羌 各五

牡丹 瓜 各五

右以咀作一服去粗入芒硝至沸頓服
止傳可有膿出膿盡膿印下血



△丹溪曰：腎癰者，腎小腫，發在耳前，
中之陰也。如近大小便處難治。

內補十宜散 有方前

又有癰腫者，項脈兩乳傍兩腋軟，如名者
無癰，癰如冷証，無癰，內補十宜散。

△丹溪曰：囊癰者，溫熱下注，有作膿者，癰
疽入囊者，曾治數人，悉由溫熱入行，
處治而用補陰，某化之，雖膿潰皮脫，
畢丸懸掛者皆不死。

△腎癰者，名懸癰，陰囊上腫而

△經曰：熱勝則內腐，是也。法當視其所發
之地，各從其經而處治。

夫發於身之表者，其不一，有七日。

腦發 腎脈經 背發 中六經 肩發 皆足太陽之經

頤發 陽明經 頤發 手太陽經 喉發 足太陽經 乳癰 內六陽明外八少陽頭三陰

穿當發 腎脈任 喉癰 任脈陽明 驂馬癰 足厥陰

肝癰 足厥陰 乳癰 內六陽明外八少陽頭三陰

臍癰 任脈 驂馬癰 足厥陰

腎癰 足太陽 發於腔子之內者，其

囊癰 足厥陰 內疽

各有四。 肺癰 手太陽 膈癰 手太陽

心腕癰 足陽明

夫十二經有氣血多少之不同，癰疽淺深
之有異，是故為治之或疎或密，或消或
或針烙，內托或外消，或深利或補益，
是故腫物為疔，宜利潰，高為癰，
宜補。宜消，宜利，宜補。



藏法而深者為花宜內托於十古不異
定議

△癰疽十字字立刻切矣其上天面星
付一日程置テ迴血ヲ取練物治療可也
疼痛有之仙仁ヲ粉ニ又跛ヲ爪モ四十モ
大之茶押合付之潰テ瘡有ハ三白散
如山絲命白皮栝ニ味入テ付之

△癰疽萬腫之同業
栝 仙仁 太山 赤朮 榆
右各為細末水煉迴付口傳紙四上敷
又方 茄子練最佳也 ロイ

△萬腫拔
雌 赤小豆 斑柏 巴豆 各粉ニ
糊練針ノ入ロイ

△又方
蛇皮 右粉ニメ

△又方
草麻子 右目前也

△又方
沉香 三年本盤 耳
山排皮シテコ子 針ニ入上付
一拔入疼痛生栗ツコリケテカミテ付止

△夫疔瘡之患者陰陽交變互相擊子
搏必成暴氣所謂暴氣者卒然大風
大霜大寒大熱体虚氣弱或藏府陰陽
偏勝之人把此暴冷之氣蒸於肌膚入於
血体氣血結滯遂成癰疽疔毒惡瘡之
患今得十三種疔證候用引干後



一曰麻子疔其癰肉起頭如米大色穢
黑四邊微赤多痒忌食辛辣近油衣
布衣并入麻由行

二曰石疔其狀皮肉相連色如黑豆甚
硬刺之不入肉微痛忌食辛辣石之疔

三曰雄疔其狀炮之頭黑屬四畔仰炮
癰起有水出虫色黃大如錢孔形前
者忌房事

四曰雄疔其狀瘡稍黃向裏屬赤似矣
瘡四面炮癰起心血色赤如錢孔者忌房
事

五曰火疔其狀如陽火燒灼瘡頭黑屬四
邊有火焰又如赤粟芥忌食燒烙

六曰爛疔其狀色稍黑有白斑在中潰有
膿水流出瘡形大小不一起面者忌房事

七曰三十六疔其狀頭黑浮起形如黑豆
四畔起赤色今日生一四日生二及至十數
未滿三十六猶可治若滿三十六某所不能
治也忌喫葱蒜積怒恨

八曰蛇眼疔其狀瘡頭黑皮浮生形如小豆
狀似蛇之眼大體硬忌惡眼人看并嫉妬
人見忌食菜

九曰鹽疔其狀如起面遍皆赤有口而
起起大忌食鹽味

十曰水洗疔其狀大如錢形中如錢孔瘡頭
裏黑屬汁出中硬忌飲漿水過後何

十一曰刀鋒疔其狀圓梭如薤葉大長一七例
內黑如燒烙忌刺及刀鋒切割鐵刃所傷
疔毒未化不可挑攻

疔毒未化不可挑攻

疔毒未化不可挑攻

疔毒未化不可挑攻



二曰浮癰其候于指趾曲圓少許合
長而軟如薤葉大肉黃外黑也處刺之
不痛黃處刺之痛

十三曰牛狗疔其狀肉色飽起稍不破
右十三種疔瘡初發瘡心先痒後痛
寒後熱者定則寒多四肢沉重心驚眼花
若大重者則吐逆逆者難治其瘡子疔
一種始末惟痒初錄忌者不得觸犯之者
發作難治其浮瀝疔牛狗疔兩種無忌
禁忌縱不瘡疔亦不能殺人疔應初發時
突起如針故謂之疔

△赤芍藥湯

治一切疔瘡癰疽
初覺憎寒疼痛

金銀花

大王

三石

活

斤

赤芍藥

各三

兩

中

各

各

△見癰腫層粟粒如綿大者

△見疔瘡腫上唾分見火疔中乾水疔端

乾者

△癰疔良方疼痛治難忌

句木皮

大王

冬

耳

右如

△疔瘡初發疼痛難忍萬腫用

三角石散

角石

五八草

中黑

頭

魚

酒及中

右名細末溫酒三升五服云茶一匙程也

下戶上戶分別可石之

△初腫疼痛引茶

板赤六

苦多

角石

黑

烏貝

星疏

各示分但具之燒振具中湯解之



籠燒八月酢絲人引或埋八日喜
或糠霜庭床花十分酢引破後
練物或五段愈其可然

△一菜湯 万腫破後瘡止液難愈
勺木皮 一味並根炒之

△腫潰散 腫潰後愈最時
六ノ粉 王粉 二味 八ノ汁

△洗茶 青木茶 疥癩 八ノ石膏
車前茶 連系 冬 七葉根

△愈茶 五段万腫物潰後固粉茶也

△膿流散 松石 生 荳柘 生 身石 黒末分
王分少

△馬齒石 黒 蝸牛 黒 古茶 生

△三白散 苦竹虫屎 生 王粉 少 各十分肉上也

△天花粉 生 角石 黒 葛粉 生
右各十分

△露蜂散 栢 生一分 丹蓉 二朱 阿仙 一分
露蜂 一分 石灰 一分 王粉 少
右各十分

△丹土散 唐土 滑石 丹 白物 少 已也

△膿切散 萬腫潰後疼痛 瓦
角石 生 黒下 血錫 下 松石 下

青木茶 下 海龍石 下 并其ノ下
コノ下 雄 下

石卷細末 澁倍付 松懸白 車前子



此三... 其... 古... 綿... 此... 乃... 良... 或... 治... 後... 此... 也...
栢 冬 蓮葉也

△瘰癧外科云瘰癧者結核也或有耳後或有耳前或有耳下連及頤頰或下連缺盆皆謂之瘰癧或有背及之經多氣少血之病也

△散腫潰堅湯 治馬刀瘰癧結硬如石或在耳前後上下及肩脇

單龍膽 酒洗 羊丹 牛 二 六 少 灸 吉 克

翹 葛 芍 連 苓 各 羊 丹 酒 洗 半 生

昆布 知母 酒洗 五 白 當 及 酒 洗 半 生

活根 栢 酒洗 各 三 秒 酒 洗

心以胆每服七盞水二盞煎盡分去祀

△痔漏瘡 附腸風 愈遠煎服外瘡治口

凡飽食 脾胃 六 臟 脾 虛

肝木盛 腸中風生故腸風云血下肛門遺核物生是痔上云其核既破

漏 上云

△奈光蒼木湯 痔漏疼痛大便結治

芫 龜 皂 各 一 白 蒼 風 各 七

栢 酒 兵 二 分 芥 尾 酒 洗 各 三 分

煎用外瘡治口 核毒散 其後

練物五段愈茶取替人付坑痔生痔

五痔 痔 白 自 前

△下疳瘡乃厥陰肝經主病

疔疳敗毒散專治下疳瘡



凡 枳 各六分 麴 荆 連 共治

知 各七分 栝 赤 芎 道

毒 各九分 龍 膽 中 各九分 紫 各五分

甘草 指 旁

右割一刺灯心三四根水煎宜七煎服如

有傷量人產後加 大五二

△ 煎香湯 下疳瘡治

山 湯 大 紫 拖 連 芎 阮 中 各

中 少 右 煎 法 如 左

△ 洗茶 治下疳瘡腫不消 各五分

凡 荆 中 三七冬 各五分

右水煎洗之即消 外三六

○ 栝 五分 辰 日 紅 物 石

○ 滑 石 中 呂 服 石 至 半 分 小 便 浸 燒 半 分 煎 湯 服 之

○ 赤 六 大 栝 中 文 合 中 白 物

○ 滑 石 大 角 石 小 五 八 小 丹 少

△ 便毒

△ 便毒 一各 駢 馬 癰 此 奇 經 衝 任 為 病

便毒 小 腹 腿 間 生 初 先 寒 熱 腿 間 腫

痛 男 女 注 慾 起 其 皮 下 寸 寸 結 血 中 逐

滯 便 毒 成 一 方 便 毒 足 厥 陰 濕 熱 因

方 倦 而 發 而 發 用 射 下 三 寸 以 生 姜

煎 食 前 服 不 得 行 更 二 三 次 立 効 在

△ 又方 三物湯

大 黃 枏 梔 各 亦 分 煎 空 心 服

△ 又方 漬後煉物 痔瘡 口

勺 木 六 葉 酢 棗 皮 東 棗 皮

艾 草 甘 如 常 之 煎

美 兒 氏 有 茶 筒 黑 燒 白 物 中 煎



油... 萬腫物良

氣腫

腫計有腫上押茶... 益茶用但... 烏膏可然

風毒陰毒脚氣毒腫... 入筋膿入... 難治

△引菜

苦多 栝貝 各粉... 引
又方 朱 虎 白物 中 槐 中

右熱湯... 煉迴

△肉菜

羊... 鹿

七 牛 中 車 少 荊 中 右意

又方 虎 大 多 大 荊 大 活

芎 大 西 中 兵 小 通 小 通

可 大 荊 大 少 中 木 風 小

貴 中 耳 右

△小兒

工... 餅米粉二味研合

臘... 煉地

△單... 其茶

包... 吹茶

明 大 天南星 小 雄 大 白地 小

右油... 煉

又方 辰砂 大 龍 少 白地 少

赤 六 葛 大 光明 中



美 ハシロ草子

海龍石 大 升卷 少 煎 三升 何症者

三升 何症者

公骨刺ハ 瘡之後下痛便毒後必煩先

難乾鮭ナリ魚唇也血盛

茶ヲ用ユ

并 芎 芎 地 芍 ホ分 獨 子 巴子

車 小 苓 耳 杜 仲 子 桂 了 苾 子

栝 多 連 子 苓 多 菟 子 薤 子

合右四ツニ分一分ヲ二日ニ用煎後元日

四盃入二盃五盃入二盃六盃入二盃

又方 木 荆 中 荖 中 兵 中 拖 中 連 中

砂 中 芹 大 苴 大 薤 大 薤 大 枳 大

芥 小 悅 小 芥 少

六味 毎ヨリ大包山帰来也其

又方 山帰来 一斤ヲ二分ケ一分坐香

坐香 壹香ノ 壹ニ 其 下 夕 下

沉 下 何 首 下 口 傳

右五味各粉メ茶二眼ニ程一日五包用吞

汁山磁来也出用

△氣腫 穴少 下疳 便毒潰腫為

腫 良

△手足皸裂

丹 拮 注ニ練テ付アレ

又方 雲母 キス 生 赤六 黑燒 五

一伐指頭先腫炊熱製痛然後折爪

一 趾結膿甚者爪甲俱脫先共補之

一 一ニテ 尻然後カウモ一ニ 痔分是時

一 焦地炭油ニテ 燒



△ 不確苦解毒丸

爵金 雄黃 各五分 巴豆 四分

左 酥 糊 二 分 ● 丸 用 紫 二 分 吞 万

腫 咽 喉 閉 經 喉 風 卒 死 而 心 頭 猶

熱 成 以 茶 調 灌 立 效 蘇 或 瘰 癧 食

癰 寒 泄 或 傷 食 腹 痛 瘧 熱 毒 腫

痛 茶 湯 下 或 十 五 九 粒 屢 試 見 效

可 与 也

△ 降 萬 腫

巴 豆 三 分 酥 二 分 托 口 口 口

虎 二 分 生 永 二 分

右 粉 二 分 ● 丸 八 粒 七 粒 可 与 也

△ 清 香 諸 疔 腫 論 不 及

南 無 五 十 數 麻 油 五 十 百 師 野 油

白 蠟 百 乳 三 分 松 石 白

右 加 減 口 口

万 腫 物

黃 蠟 五 分 松 二 分 乳 二 分

麻 油 七 分 椰 子 三 分 牛 油 二 分

家 搗 油 日 伽 瓦 油 子 香 口 口

△ 油 明 丹 萬 腫 物

丹 二 分 白 蠟 二 分 酥 子 二 分 可 与 也

膽 蓉 少 加 驗 口 口

△ 名 已 治 月 万 腫 愈 茶 膠 氣 者

麻 油 師 野 油 蠟 四 十 日

始 念 上 上 土 四 十 日 入 煉 久 數 煉 黑

成 口 口 黑 白 口 口

△ 苦 治 丹

茹 百 火 牛 五 十 八 分 五 十 長 四 寸

六 地 水 十 斗 八 三 升 五 煉 去 粗 路 煉

糖 糖 糖 糖 糖 十 寸 口



素龍膏 骨切疼痛脚

丁香粉 丁香皮柱 松石

師野油 三合

合之々トメ付 疾冷ニ様ニ綿ニ包
布モ可燃骨折ニハ竹ニテ七柳ニテ

卷 五口カヨ

高膏 萬腫物既膿未膿忽念

一切之瘡腫物煩疼痛是付則痛止諸

疵并折損是付之念或火湯中

トニ是付付路ナシ膿瘡ニテ膿中瘡

リ膿血下膈膿血出○程九十粒空心温

酒服或四豆ニ豆噉大蛇喰ルニ付ヨ莫

清油十升 菘 不通 湯ニ付去

皂角 一奴虫喰ルヲ用 粉ヲ服スルハ万瘡不移

雞ノイノ程 右五味油

付次朝一厨上曼火ヲ以煎コケルマニメ

祖マシニル又煎楮油五升入煉立ニテ

丹五あ入柳一ツニテ無隙檢立煖煮煉

テ松石五あキリン血一五ハスヲマヌス

カキタテ煉シハリテ 射卷一ノ入

テ置ニ置用治スル也 右



瘡

夫金瘡者三百方雖載不內不外曰
輕論則最不內不外曰也重論則內外
因不內因皆以不可捨之刀一室中處
內筋骨血氣皆以耗損淺則自然愈
深則其病受臟腑更以喜怒憂
悲驚風寒暑濕必金瘡者受他病
苛也診候脈詳証可施內外之藥金
瘡雖淺少不可輕又其變雖廣大非難
治更法唯不同輕重可尽力古人
獅子捕象其刀捕兔其力故
六經之王云云治金瘡專可守之唯
又本道醫術可治之最為樞機矣

金瘡三時守難法死

沈遲不與得大類



示下 血留氣上而

木石弓打疵血不出

面色宜青白不宜黑赤但舌過發

熱風又可辨之

痰口色赤吉白惡黑紫難治必生

痰也填之

血者早可留又不出亦危証也自留

已上者血不出則必入胸留血早可

之

腦破而出則不治但白薄髮不被身

治

疵口雖非云處其疵鼻中云處則可

斟酌

我腰者年氣不交陰陽之敗

少年只冷者血乱也早血

之眼

△肢肢之內手足之必可填

△背臂腰臀腿外可填

一氣付事 二血留事

三問茶事 四血洗事

五筋液手續事 六腹膈外出入內事

七血胸入障事 八箭斃鉄炮取夏

九疵肌肉生夏 十疵虫痛夏

十一疵癰成夏 十二腦出夏

十三日朝散 十四大白散

十五半金愈傷散 十六手合

氣付

參 二五 川骨 箱一丹 右一味各粉



又六 耳 寒暑積木

葛粉 月秣 石六

血留

山 毛陰干 血竭 各示方而檢掛

又方 黑猫頭 黑 虎皮 黑 辰砂

蒲黃 五八少 黑 右各五味

粉 蜜丸 人甲 置 立 處 留 舌 頭

白則良

又方 血竭 二分 蒲 三分 葛粉 一分

末 二斤 五八一分 右五

糊 三 程九粒 三粒 湯 點

又方 枳原 三 黑 檢掛 妙也

問藥

車前子 皂角 二味 煎酒 煎

吐 不 直 舌 日 次 吐 也 死

人 亦

白馬屎 蓮肉 香色 煨 等 分

茶 一 眼 示 湯 三 与 也 死

又方

葵根 白味 土气 洗 一 束 切 能 干

并 少 加 天 目 水 二 盞 入 一 盞 煎 之

吐 可 死 血 吐 齋 治 之

血洗

當流 亦有 雖然 病人 望 為 有

春 衰 二 日 秋 冬 四 日 五 日 洗

石 菖 麥 木 系 塩 依 之 八 口

各 四 寸 廻 長 交 同

又方 肝木 車前子 冬草 藤瘤

楊梅皮 空木葉 美非 共 煎 之

世 一 行 氣 之 所 愈 也



深

松林皮

芭蕉

一味各黒文ニ

南星サ加

干續筋厚皮

龍骨

蛎

赤六

湯名

川

黒五

各五味粉ニ先切口玉

油ヲスリ業ヲモ煉テ温メ瓶口両方付

テ上ヲ灯心ニテ卷又其上難ク白コシセハ

リニシテ温成リ以上花包干豆共ニ如地

極天柳ニテハ寸ニワタニテ包置

又方

取蟹

黄皮腦

并

豆中肉

炒末切口ニ捨入ハ筋出相合セハ若筋不

加件切ニバリニハチ方豆ヲ大糊ニ

右ナ豆尻縫時ハ干豆ノ先シ

ラ大ニ作去番ヲ付置ツニ如何

續時内菜

白朝散愈痛可然也法

後アリ

△干豆骨碎

ケ丸ニ深瓶ニ茶封

△又方

楊梅皮大

白物サ紺屋糊テ

煉付内菜

日本山帰来

唐山帰来

名粉ヲホ份酒ヲ用

△日月碎

肉内ニ留リ有最芭蕉白根

ヲ煎脹立ルニ出ル

ナニナリタキソクイニテ押合セテ付ニ

シムニクタクソクイニテ押合セテ付ニ

△腸外出先ヲ内ニ入克

腸ノ度ニ此ニナリ見ニ如大ニ

ナニナリタキソクイニテ押合セテ付ニ



ツノカニ シイキワニ主

ヒツカニ入小兒ヲイマキニシテスルハ

腸自入也切葉ツ付ロシヌイテ空色シ

スル入紙セハリ腸ニモ紙アラス皮紙シ

切ヒロケ腸ノ紙ヲ能洗腸ノ紙ヌイ葉

對切上ニ紙ヲ能縫サテ付葉油口偽

△汗瘰瘵キラフ者ニハ如常腸入ニテ

ニイテ置モシ入コリタレ腸ヲハキルハ

切様ハアラフヲ細ウテイ巴豆ヲシホリ

其油ヲヨリニ付腸ノ入コリタレキ

ニミトイハカリシヤトユイテヨリチキ

キリスワレ切毎日地茶ヲ紙回リニ紙

腸モ付入殘先腸ニ入セハ八日冬

ハ十日工一日ニハキレテ落ソ地茶ト云ハ

ウツ木 接骨木

桓通 車前ヤ各黒糖

ハコノハニテ引付ル

大京腸虫タルニ洗茶ス以テ麥粥湯ツ

温メ入時以赤子屎塗之

△血暈入先降夏

虎子下 桂心 一〇七 桂心 一〇七

四味丸メ生湯ニテ用之

大方 蘓合香圓 夏 巴豆 一粒 其ニ

押合十二粒丸メ振高知ヨリ落テ或テ

方 花ニモ良

大方 小麦膏 一〇七 麻葉 三味

各亦分黒燒末メ茶ニテモ湯ニテ用

△箭銃鉄炮玉ヲ取夏

治箭銃ノ骨不可拔者



傷處

且忌相

相

動按之

又方 拔矢 午蠅 蟾蜍 蜈蚣

草麻子 各等分 塗口

又方 磁石 一五 麩皮 裏白皮 附

生栗 松青 各五分

右細末入塗之鐵及留則付之天木竹
留則去去磁石加柳核

又方 新被青箭搗藍青紋汁

飲并傳瘡上如無藍青布紋

汁飲之亦治瘡中

又方 竹木刺有肉中不出取生牛

膝莖搗末入塗之即出

△ 疔 肌肉生愈菜草

疔口 瘡核則以南生末藥

△ 破血丹

天花粉 三反 姜黃 白芷 各五分

赤芍藥 二反

右為末每用少許乾摻於患處或

蜜調塗

△ 玉灰散 疔口傳敷

石 薤菜 研碎合以胡廣

△ 滑石散 滑石 白物 丹 各五分

△ 浪砂散 辰砂 蛇骨 天花 各五分

△ 黃柏散 栢 輕 公 阿仙 各五分

赤梟 七分

△ 葛粉散 葛粉 二 辰砂 七分

輕粉 一五 丹 一五

△ 批



疵品用ハ行ノ既言也

未人持持ヨ別備

又方 明石 朱一

升天目ニニ盆入一益ニ益能立シ疵口此

△疵癰之夏

疵癰ナラフ血能取右ノ扱又惡肉ヲ

トシ青木葉 柿核 木分 黑燒竹葉

合塗之四圍ニハ地茶ヲ内茶專也

外ニハ練物良

△腦出

腦出赤子屎ヲ柳ヘテテソクイノ様柿

子アシヘラテ腦ヲ押合羽ヲ以扱之則成

肉廻リニハ地茶ヲ付腦ニハ手ヲ以

口ヲ下毒也重日良半日ハ大悪ム

半ニアタニ目ハ血ハシリ留リカヌ

或ハ手足ノ赤子切ル亦ハ兩口控

一兩藥即效也

△十五

白朝散 治諸金瘡血乱

方 木香 陳 茯苓 歸

芍 紫檀 沉香 地茶

大黃 縮 各五分 右炙十二味

白朝散 霍 正 耳 加三味各

十五味

白朝散 加減有後 春ハ歸夏ハ

芍 秋地黄 冬川

○熱 柴 芩 ○熱甚ハ柴 芩 知母

石膏

○有膿 生黃 芩

○血出 蓮黃 芩



〇熱 芩 柴
 〇大便不通 木通 芩 沢
 〇怔忡 麦門 茯神 遠
 〇吐逆 藿 白梅花
 〇咽乾 葛根 麦門
 〇頭痛 川芎 藁本
 〇虫出 蜜 楮
 〇痲癰 茯 桔 芩
 〇有膿 苾 乳 沒 茶
 〇反張 稻 風
 〇痰 半 陳

安全愈傷散

又名秘術湯

多 茂 苓 栝 木 芎 各
 沉 木 其 路 煎 服 如 法

如方

右白朝散大白散愈傷散三方大
 秘方而金瘡通治何方出此三

方上珍之宝之

七氣湯 午合 禁物

葛 藜 〇カコ 串 柿 辛 子

ニシクニ 齋煉 狸

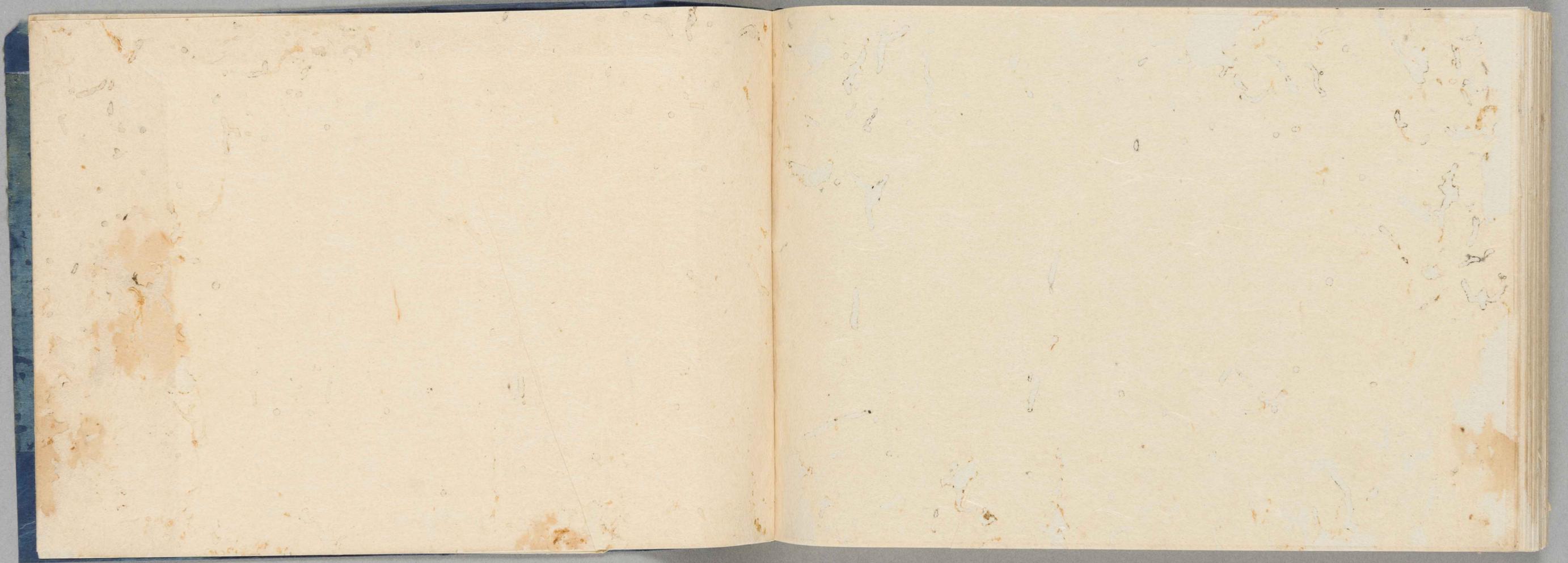
右方外魚毒のヨク者ヲ禁ルハ版中

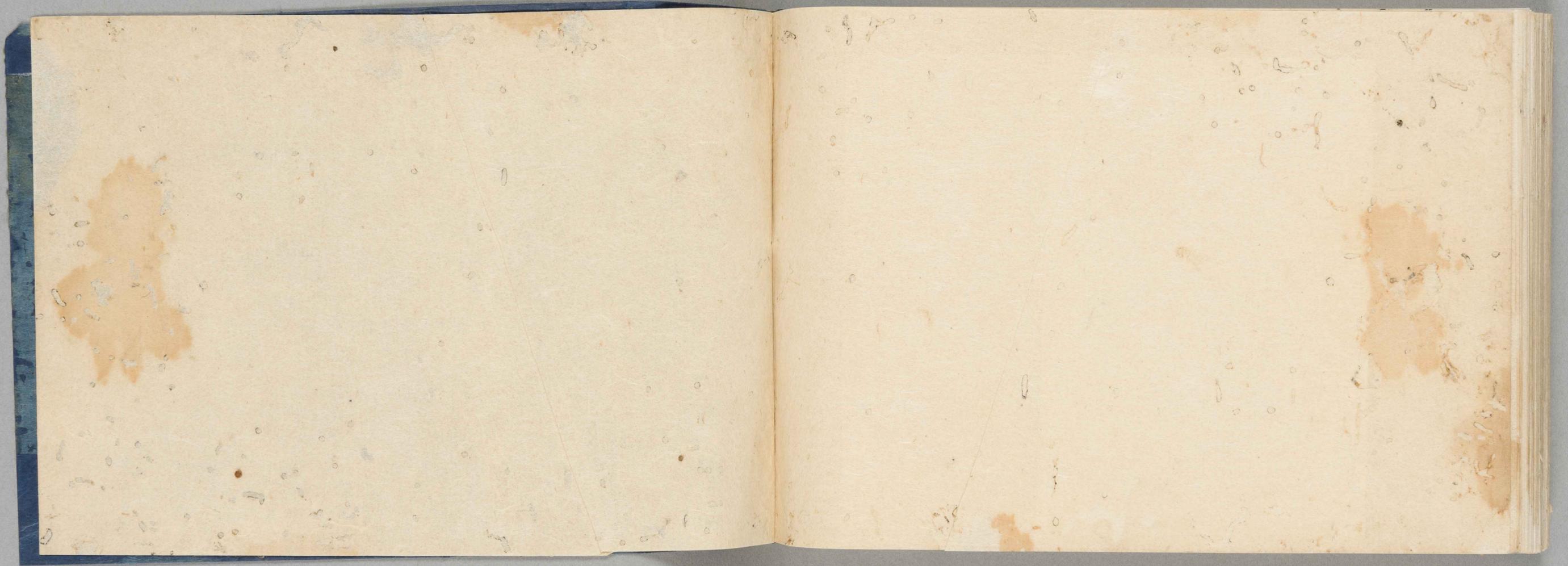
瘦血頰也

〇一カ寸 二色 赤ハ女青男 黒燒 並 葉ニハ
 茎ヲ酒ニ分テ日乾
 赤ハ女青男ニ用上湯
 去リ其ノコトカク
 上段ヒケテ去根中ノ骨ヲ白ク水ニ
 内ニ夜分少焙香包テ粉ニ人
 上ノイカニ毛 煙不出地燒生ニニ民

〇川骨
 〇沉
 〇アヲ
 〇カヲ
 黒燒
 黒燒









75
6/17/12



